◉市外電話交換監査手續

（當局所定）

一　市外交換「サーヴキス」ノ監査ハ本手續ニ據ルヘシ

二　本監査ハ次ノ三種トス

(イ)　市外線監査　市外線ニ於ケル「サーヴキス」ヲ監査ス

(ロ)　「モニター」監査　交換手電話回線ヲ聽話シ市外線監査ニテ監査シ得サル事項ヲ直接取扱座席ニ就キ監査ス

(ハ)　臨席監査　監査機ニテ監査シ得サル事項ヲ監査ス

三　市外線監査ハ監査スヘキ市外線ヲ監査線ニ連結シ監査臺ニ於テ觀測スルモノトス

監査臺ニ於テ監査シ得サル部分ハ監査終了後當該市外線ニテ取扱ヒタル交換證等ニ就キ調査スルモノトス

四　市外線監査ハ主トシテ左記各項ノ調査ヲナスモノトス

(イ)　市外通話接續上ノ各種取扱時間

(ロ)　同上取扱振ノ適否及對手局ヘノ應對振

(ハ)　通話時間打切ノ良否

五　市外線ノ監査ハ左記各號ニヨリ監査原紙（第一號樣式）ニ記入スヘシ

記入項目　番號

(一)　受付時分　0　當該通話（發信ニ限ル）申込受付時間ヲ交換證ヨリ轉記スルコト

(二)　監査時分　1　當該通話取扱ノ監査ヲ開始シタル時分

(三)　發信　請求對話者　2　發信及發中繼通話ノ請求對話者ノ局名（略字ニテ）及番號

(四)　着信　請求對話者　3　着信及着中繼通話ノ請求對話者ノ局名（略字ニテ）及番號

(五)　通話取扱種別　發信　4　通話取扱ノ經過ニヨリ次ノ種別ニ區分シ略號ヲ以テ記入スルコト

着信　5

(イ)　通話完了　シ/2　通話ヲ完了シタルモノハ斜線ノ左肩ニ通話種別（フ、シ、テ、ヨ、ム等ノ區別）ヲ右下ニ通話時數（二通話時以上）ヲ記入スルコト

(ロ)　取扱後廻シ　ア　取扱上一次ニ接續セラレス後廻シトナシタルモノ

(ハ)　通話取消　ケ　通話取消トナリタルモノ但シ有料取消ノモノハケト（）ト記表スルコト

取扱經過時間（秒）　監査開始ト同時ニ測秒器ヲ始動セシメ順次左記事項毎ニ其ノ時間ヲ記入スルコト

(六)呼出信號　8　對手局呼出ノ信號(第一次連續)ヲ了リタルトキ

(七)對手局「プラグ」挿入應答　9　市外臺ニテ應答「プラグ」ヲ挿入シタルトキ(着信ノ場合)
10　呼出信號ニ對シ應答シタルトキ
但シ引續キ取扱ノ場合ハ之レヲ承諾シタルトキトス

(八)對話者番號通報　11　對手局ヘ對話者ノ局名番號ヲ通報シ了リタルトキ

接續　12　對話者ヲ市外線ニ接續シ　對交「オ出ニナリマシタ」ト云ヒタルトキ

(九)被呼加入者應答　13　對話者應答時刻

對話者番號確メ　14　發交對話者ノ局名番號ヲ確メ了リタルトキ

(一〇)通話時間始話時刻　15　發交「オ話シ下サイ」ト云ヒ加入者間ニ通話シ始メタルトキ
但シ「オ話シ下サイ」ヨリ始話マテ三十秒以上ノモノハ其ノ事由ヲ記事欄ニ略記シ置クコト

通話時數通告　16　交「コレカラ……通話ニナリマス」ト時數通告ヲナシタルトキ

通話打切　17　交「時間デス」ト通話ヲ打切リタルトキ

終話時刻　18　兩加入者間ノ通話終了シタルトキ

(二)終話

終話確メ　19　終話後請求者ニ終話ヲ確メタルトキ

對手局ヘ信號　20　終話ヲ確メタル後對手局ヘ信號シタルトキ

對手局應答　21　對手局應答シタルトキ

終話報告　22　對手局ヘ「有リガタウ」ト云ヒタルトキ

(三)接續不能

請話中無答報告　23　請求者話中又ハ無答ノ報告ヲ爲シ後廻シトシタルトキ

對話中無答報告　24　對話者　同

取消報告　25　通話取消ノ通報ヲナシタルトキ
但シ有料取消ノ通報ナルトキハ本欄ニ橫線ヲ引クコト

(三)兩交引込ミ又ハ次ニ移ル　26　終話又ハ接續不能ノ報告ヲナシテ兩交換手引込ミタルトキ又ハ次ノ取扱ニ移リタルトキ
接續中障碍等ノ事故ノ爲メ他ノ回線ニ接キ替ヘタルトキモ右ニ準

シ其ノ時間ヲ本欄ニ記入シ置クコト

(一四)途中應答

信　號　27　接續中監視信號(フラッシュ)等途中呼出ノ信號ヲナシタルトキ

交　應　答　28　前號途中信號ニ交換手應答シタルトキ

交換手ニ因ル事故　當該欄ニ自局ノ事故ハ單ニ／線ヲ以テ對手局ノ事故ハ＼如ク局名略號ヲ加ヘ又所屬不明ノモノハ×印ヲ以テ記表スルコト

(一五)信號方不良

普通信號　29　(イ)信號長キニ失スルモノ

(ロ)呼出信號ノ定メアル回線ニ於ケル信號違

電信信號　30　(イ)送受誤又ハ送信不正確

(ロ)電信信號ヲ使用セス

(一六)接續方遲延　31　對手局呼出開始(8)ヨリ始話時間(14)迄ノ經過時間(電信信號式ニテ一分以上リングタウン式ニテ二分以上)

(一七)聽話方不良　32　(イ)「キー」ヲ二個同時ニ倒シ混話セシム

(ロ)接續後ノ監話ヲ爲サス

(一八)相手違

接　續　誤　33　(イ)對手局ヘ通報誤リ

(ロ)對手局ノ錯誤

(ハ)「オーダー」錯誤

(ニ)其ノ他

記　入　誤　34　受付ノ際記錄誤(加入者ニ因ル申込方相違ハ加入者事故(45)トス)

(一九)通話時間

通話時數通告不良　35　通話時數ノ通告ヲナササルモノ又ハ二十秒以上經テ通告ヲナシタルモノ

打切忘却　36　三通話時ヲ經過スルモ「時間デス」ト打切ヲ爲ササルモノ

但シ二十秒以内ハ本事故トナサス

打切延長　37　通話時數ノ通告ニ對シ繼續ヲ求メサルニ拘ラス其ノ儘通話ヲ繼續セシメタルモノ但シ十秒以内ハ本事故トナサス

打切速シ　38　通話時間ヲ經過セサルニ時間打切ヲナシタルモノ

(二〇)回線濫用

(三)雜談 39 回線ニテ交換上必要ナラサル雜談ヲナシタルモノ

(四)爭論 40 回線ニテ爭論ヲ爲シタルモノ

(五)無料通話 41 (イ)制規ニ據ラサル無料通話ヲ濫リニ接續シタルモノ
(ロ)特ニ必要ナル故ヲ確メス三通話時ヲ越ヘテ接續シタルモノ
注意　本事故ハ其ノ判斷困難ナル場合モアルヘキニ付可成其ノ狀況ヲ記事欄ニ詳記シ置クヘシ

(三)事故通報洩
(一)取消通報 42 取消通報ヲ忘却シ對手局ノ注意ニヨリ初メテ其ノ旨通報シタルモノ
(其ノ關係番號等ヲ記事欄ニ摘記シ置クコト)
(二)其ノ他 43 通話關係者「話中」「不出」等ノタメ接續後廻シトナシタル場合對手局ヘ其ノ旨通報方ヲ忘却シタルモノ

(三)雜 44 前各項以外ノ取扱事故

(三)加入者事故 45 前各號ニ準スル事故ニシテ其ノ原因加入者ニアルモノ

(四)設備事故
通話不良 46 回線ニ於ケル双方加入者又ハ取扱者ノ通話遠ク完全ニ其ノ目的ヲ達セサリシモノ

(五)回線不良 47 回線雜音等ノ障碍ノタメ通話シ得サリシモノ

(六)交換機不良 48 交換機「コード」其ノ他機械不良ノタメ通話完全ナラサリシモノ

(七)其ノ他 49 前三項以外ノ設備上ノ事故アリタルモノ

(五)所屬不明事故 50 事故ノ原因所屬判明セサリシモノ

(六)記事 51 前各項以外又ハ其ノ項ニ屬スルモ當該欄ニ記入シ得サルモノハ成ヘク詳細ニ記入スルコト

(七)監査者 52 監査者ハ略名ヲ以テ記入スルコト

(六)交換取扱者 53 (イ)當局交換取扱者番號ヲ交換證ニヨリ記入スルコト
(ロ)必要ト認ムル場合ハ對手局取扱者ヲ調査シ記入スルコト

六　記入濟監査原紙ハ左記各號ノ計算整理ヲ爲スヘシ

(一)監査數　發信、着信、發中繼及着中繼ノ別ニ夫々合計スルコト

(二)各事項　原紙八一二八欄計算式ノ示ス處ニヨリ各事項毎ニ經過時間ヲ算出シ當該欄上部ニ發信ハ赤色「インキ」ニテ着信ハ青色「インキ」ニテ記表スルコト

監査數及經過時間　各事項(各行)毎ニ右經過時間及監査數ノ合計計算ヲ爲シ原紙下部相當欄ニ記入スル

コト

發信、着信及中繼信ハ各別ニ合計スルコト

(三) 各事故　一項毎ニ合計スルコト

(四) (一)(三)ノ合計及(二)ノ各事項平均時間ハ原紙數葉ヲ一括シ最終葉ノ欄外ニ記入スルコト

(五) 記事欄中特ニ重要ナルモノハ其ノ部分ニ注意線(赤「インキ」ニテ横線)ヲ引キ置クコト

七　前項ノ計算整理ヲ了リタルトキハ同項(四)ノ合計及左記各號ノ件數ヲ市外交換監査成績集計表(第三號樣式)ニ轉記スルコト

(一) 通話時間別度數　通話時間ニヨリ左記時間毎ニ區分計上スルコト

(1) 發信及發中繼　二分以内　三分以内　四分以内　五分以内　七分以内　一〇分以内

(2) 着信及着中繼　一五分以内　一五分ヲ超ユルモノ

(二) 打切時間別度數　打切時間ノ遲速ニヨリ左記時間毎ニ區分計上スルコト

(1) 發信　一〇秒以内　二〇秒以内　三〇秒以内　六十秒以内

(2) 着信及中繼信　二分以内　三分以内　五分以内　五分ヲ超ユルモノ

八　前項計算ヲ了リタル監査原紙ハ更ニ一應檢査シ遺漏ナキヲ確メタル上市外監査成績概要調(第四號樣式)ニ相當時間ヲ記入シ監査原紙ト共ニ回覽ニ附スヘシ

九　市外線監査中對手局(管内ニ限ル)ニ係ル事故ヲ發見シタルトキハ市外交換監査成績調用紙(第五號樣式)ヲ用ヒ監査原紙ヨリ當該局發信ニ屬スルモノヽミヲ轉記シ遞信局監督課長ニ報告スヘシ

一〇　「モニター」監査ハ市外席交換手電話回線ヲ監査臺ニテ聽話シ左記事項ヲ監査ス

(一) 市外中繼「オーダー」ヨリ通話開始(後廻シ又ハ取消報告ヲ含ム)迄ノ取扱經過時間

(二) 右取扱中ノ交換事故

以上ハ「モニター」監査原紙(第六號樣式)ニ記入スルモノトス

一一　臨席監査ニ於テハ左記事項ヲ調査スルモノトス

(一) 疏通狀況調査

疏通狀況調査ハ繁忙時ニ於テ特定ノ回線ヲ通過セル發信通話ノ度數及時數ニ依リ之ヲ爲スモノトス

(二) 交換證事故調査

交換證事故ハ左ノ點ニ就キ調査ス

(1) 受付時刻ニヨル接續順位ノ誤レルモノナキヤ

(2) 通話種別ヲ誤リタル爲メ順位ノ正シカラサルモノナキヤ

(3) 中繼通話ノ接繼ヲ自局發信通話ヨリ遲ラシメタルモノナキヤ

(4) 話中ノ爲不當ニ遲延セシメタルモノナキヤ

(5) 其ノ他定式ノ記入ニ誤レルモノナキヤ

(三)　交換手ノ取扱振調査

本調査ハ左ノ點ニ就キ之ヲ行ウ

(1)　取扱振親切ヲ缺クモノナキヤ

(2)　應答振不穩當ナルモノナキヤ

(3)　用語ノ使用ニ關スル充分ノ注意ヲ拂ハサルモノナキヤ

(4)　語調不良又ハ發音不明瞭ノモノナキヤ

(5)　加入者又ハ隣席者、對手局交換手等ト雜談スルモノナキヤ

(6)　「コード」、「プラグ」又ハ「キー」ノ取扱振粗暴ナルモノナキヤ

(7)　事故交換ヲ部長ニ移サス自己限ニテ取扱フモノナキヤ

(8)　應答順位ヲ誤ルモノナキヤ

(9)　信號長長キモノ、短キモノ、其ノ他不充分ナルモノナキヤ

(10)　監視信號ニ對スル注意ヲ怠ルモノナキヤ

(11)　切斷ニ對スル注意ヲ怠ルモノナキヤ

(12)　「オーダー」方法宜シカラサルモノナキヤ

(13)　指定セラレタル中繼線番號ヲ誤リ又ハ明瞭ナルニ問返スモノナキヤ

(14)　其ノ他ノ事故ニシテ特ニ注意ニ要スルモノ

以上ハ現場監査市外成績日計表(第七號樣式)ニ記入スルモノトス

(四)　特殊臺取扱調査

記錄席、案內席ノ應答時分並ニ應答振ヲ各局ヘ出張シテ監査ス

（第一號様式）

市

大正

（　　　線）

受付時分	監査時分	發信		著信		通話種別取扱		取扱							監査者	當局取扱者
								呼出信號	對手局		對話者					
		請求者	對話者	請求者	對話者	發信	著信		「プラグ」挿入	交應答	番號通報	接續	被呼加入者應答	[illegible]		
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	[illegible]	52	53
計算式	—0								—8	—8 9	—10	—11	—12	—		
監査數																
總査數																
平均%																

市外交換監査原紙

（　　線）　　大正　　年　　月　　日　　曜日（　　間）　　第　　號

受付時分	監査時分	發信 請求者	發信 對話者	著信 請求者	著信 對話者	通話取扱種別 發信	通話取扱種別 著信	取扱經過時間（秒） 呼出信號	對手局 「プラグ」挿入	對手局 交應答	對話者 番號通報	對話者 接續	對話者 被呼加入者應答	對話者 番號確メ	通話時間 始話時刻	通話時間 時數通告	通話時間 通話打切	通話時間 終話時刻	終話 終話確メ	終話 對手局ヘ信號	終話 對手局應答	終話 終話報告	接續不能 請話中無答報告	接續不能 對話中無答報告	接續不能 取消報告	両交引込又ハ次ニ移ル	途中應答 信號	途中應答 交應答	交換手ニ因ル事故 信號方不良 普通信號	信號方不良 電信信號	接續方遲延	聽話方不良	相手違 接續誤	相手違 記入洩	通話時間 時數通告不良	通話時間 打切忘却	通話時間 打切延長	通話時間 打切速シ	回線濫用 雜談	回線濫用 爭論	回線濫用 無料通話	事故通報洩レ 取消通報	事故通報洩レ 其ノ他	雜	加入者事故	設備事故 通話不良	設備事故 回線不良	設備事故 交換機不良	設備事故 其ノ他	所屬不明事故	記事	監査者	當局取扱者
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53
計算式	—0								—8	—8 —9	—10	—11	—12	—13	—14	—15	—15	—15	—18	—19	—20	—19	—11	—11	—11			—27																									
監査數																																																					
總査數																																																					
平均%																																																					

（第一號樣式）

（第二號様式）

月中

回線名	日次	監査數			時間經過待合（發信）		通話取扱別時					途中應答			
		發信	着信	合計	監査數	總秒數	普通フ	至急シ	定時テ	豫約ヨ	無料ム	信號 監査數	信號 總秒數	交應答 監査數	交應答 總秒數

月中市外交換監査成績集計表　　其ノ一　（　　信）

（第二號樣式）

回線名	日次	監査數 發信	監査數 着信	監査數 合計	待合經過時間(發信) 監査數	待合經過時間(發信) 總秒數	通話取扱別時(件)數 普通 フ	至急 シ	定時 テ	豫約 ヨ	無料 ム	後廻 ア	取消 ケ	同有料 ㋘	呼出信號 監査數	呼出信號 總秒數	對手局 「プラグ」挿入 監査數	總秒數	對手局 交應答 監査數	總秒數	對話者 番號通報 監査數	總秒數	對話者 接續 監査數	總秒數	對話者 番號確メ 監査數	總秒數	通話時間 始話時刻 監査數	總秒數	通話時間 時數通告 監査數	總秒數	通話時間 通話打切 監査數	總秒數	通話時間 終話時刻 監査數	總秒數	終話 終話確メ 監査數	總秒數	終話 對手局へ信號 監査數	總秒數	終話 對手局應答 監査數	總秒數	終話 終話報告 監査數	總秒數	接續不能 請話中無答報告 監査數	總秒數	接續不能 對話中無答報告 監査數	總秒數	接續不能 取消報告 監査數	總秒數	接續不能 加入者へ通報 監査數	總秒數	両交引込又ハ次ニ移ル 監査數	總秒數	途中應答 信號 監査數	總秒數	途中應答 交應答 監査數	總秒數

（第三號樣式）

月中市外交換監査成績集計表（其二）（　　信）

日次									
通話時間別	二分以内								
	三分以内								
	四分以内								
	五分以内								
	七分以内								
	十分以内								
	十分以上								
通話打切遲速別	五秒以内								
	十秒以内								
	二十秒以内								
	三十秒以内								
	一分以内								
	二分以内								
	三分以内								
	五分以上								
交換手ニ因ル事故	信號不良　普通								
	信號不良　電信								
	接續方遲延								
	聽話方不良								
	相手違ヒ　接續誤								
	相手違ヒ　記入誤								
	通話時間　時數通告不良								
	通話時間　打切忘却								
	通話時間　打切延長								
	通話時間　打切速シ								
	同線濫用　雜談								
	同線濫用　爭論								
	同線濫用　無料通話								
	事故通報遲レ								
	取消通報其ノ他								
	雜計								
加入者事故									
設備事故	通話不良								
	回線不良								
	交換機不良								
	其ノ他								
	計								
所屬不明事故									

（第四號様式）

局長　監査課長　主任

市外交換課長　課

主事　市外幹部

回覧

月　日分市外監査成績概要表及ヒ監査原紙回覧ス

市外監査成積概要調表

（監査自　時　分　時間至　午　時　分）

線

監査表		一通話平均時間			發信打切遲延	交換取扱事故	摘要
發信		待合時間（發信）	平均	時分	三〇秒以内	自局	
着信			最大	時分	一分以内	對手局	
中繼信發着		取扱所要時間（發信）		分秒	三分以内	其ノ他	
計		一時數當リ通信時間（發信）		分秒	三分以上	計	

（第五號様式）

大正　年　月　日

名古屋中央電話局長

遞信局監督課長殿

市外交換監査事故ニ關スル件

月　日市外交換監査中　局取扱ニ係ル事故別紙調書ノ通リニ付相當處理相成度

右報告ス

（第六號様式）

「モニター監査原紙　其一（「オーダー」ヨリ通話開始迄）

記事	（話中ノ報告 （取消）又ハ關係者	通話開始通知	加入者着信接續通知	（加入者應答）	（中繼線番號）	（中繼線指定）	（最後「オーダー」ノ電話番號）	中繼席へ「オーダー」ス	（着）對話者番號ヲ聞終ル	監査時刻	（着）（發）請求者對話者電話番號

（第七號様式）

局現場監査市外臺成績日計表

大正　　年　　月　　日　　曜日天氣

記事	合計	監査事故																擔當席	擔當席
		雜	中繼線番號誤	再三問返シ又ハ反覆	「オーダー」方法不良	切斷不注意	監視信號不注意	信號方不良	應答順位違	「コード」「プラグ」「キー」取扱不良	事故交換ヲ自己限取扱	傍見雜談	發音不明瞭	語調不良	用語誤	應答振不穩當	取扱振不親切		

現場監査市外臺取扱事故監査票 （第　　號　月　日）

監査者	被監査者	局　　　部	監査時間	擔當席
			始	
		年　月　技倆	終	

監査事項	件數	記事
取扱振不親切		
應答振不穩當		
用語誤		
語調不良		
發音不明瞭		
傍見雜談		
事故交換ヲ自巳限取扱		
プラグ、キー、コード、取扱不良		
應答順位違ヒ		
信號方不良		
監視信號不注意		
切斷不注意		
「オーダー」方法不良		
再三問返シ又ハ反覆		
中繼線番號誤		
雜		

線市外交換監査成績調 （　月　日）

受付時刻	局名番號 請求局	局名番號 對話局	通話種別	監査時刻	始話時刻	終話時刻	通話時間	時數	打切遲速	終話報告時間	取扱所要時間	事故件數	記事
1	2	3	4	5	6	7	8(7-6)	9	10	11	12(11-8)	13	14

◉外勤監査規程（當局所定）

第一章　總則

第一條　外勤監査者（以下單ニ外勤者ト稱ス）ハ關係ノ規程手續等ニヨル外尚本規程ニ據リ電話加入者探問及自働電話巡回ヲ爲スモノトス

第二條　本監査ニ依ル成績ハ局内監査成績ト共ニ業務改善ノ資料ニ供スヘキモノナルニヨリ常ニ愼重公正ナル態度ヲ以テ之ニ從事スヘシ

第三條　外勤者ハ一般電話業務上又ハ使用上ノ事項ニ就キ加入者（又ハ公衆）ヲ指導スヘキ位置ニ在ルモノナルニヨリ局内交換取扱ハ勿論各種關係規程參考事項等ニ精通スルヲ要ス

第四條　外勤者加入者宅ヲ訪問シタルトキハ叮嚀ニ其ノ來旨ヲ告クヘシ

加入者（又ハ公衆）トノ應接ハ鄭重親切ナル態度ヲ以テシ苟モ對手者ニ不快ノ念ヲ抱カシムルカ如キコトアルヘカラス

電話機其ノ他附屬品等點檢ノタメ入室セントスルトキハ成ル可ク加入者ニ立會ヲ求メ其ノ承諾ヲ得ルコトニ注意スヘシ

第五條　外勤者ハ外部ニ對シテ電話官署ヲ代表スルモノナルヲ以テ加入者（又ハ公衆）ヨリ申告又ハ質問ヲ受ケタル場合檀ニ獨斷ニテ回答スルコトナク夫々主管課係ニ打合セ愼重調査ノ上之レヲ處理スヘシ但シ輕微ナル事項ニシテ事由明瞭ナルモノハ此ノ限リニアラス

申告又ハ質問事項重要ナリト認メタルトキハ其ノ旨監査主任者ニ報告シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條　外勤者所持ノ時計ハ毎日發局前監査課標準時計ト照合正整スヘシ

第七條　外勤者ハ特ニ命令ヲ受ケタル場合ノ外毎日一旦監査課ニ出勤シ當日ノ事務ニ就テ夫々打合セタル上發局スヘシ

當日分監査成績ノ計算處理及翌日ノ準備等ハ歸局後之ヲ爲スヘシ

第二章　加入者探問

第八條　外勤者ハ電話加入者ヲ巡回訪問シ左記各項ノ探問又ハ調査ヲ爲シ其ノ成績ヲ電話加入者探問票（第一號樣式）（以下單ニ探問票ト稱ス）ニ記入スヘシ

一　交換取扱振リ及通話ノ良否ニ關シ平常ノ狀況ヲ加入者ニ探問スルコト

二　加入者宅電話機ヨリ試呼シ前項ノ實地監査ヲ爲スコト

三　加入者ノ電話使用振ニ就キ監察指導スルコト

四　電話機其ノ他設備上ニ就キ異狀ナキヤ實査スルコト

五　其ノ他特命事項若ハ必要ト認ムル事項ノ調査

第九條　交換取扱振及通話ノ良否ニ關シテハ左記各項ニ就キ平常ノ狀況ヲ加入者ニ質問スルモノトス

加入者ヨリ此等ノ事項ニ關シ事故ノ申立アリタルトキハ其ノ事實發生日時等ヲ聽取シ答辯ヲ要スルモノハ一應調査ノ上回答スヘキ旨挨拶シ置クヘシ

一　應答ノ遲速
二　切斷ノ遲速
三　言語ノ良否
四　接續誤ノ有無
五　二重接續ノ有無
六　話中切斷ノ有無
七　其ノ他ノ取扱上ノ事故ノ有無又ハ取扱振ノ良否
八　通話ノ良否

第十條　試呼監査ハ平常加入者カ通話スルト同樣ノ狀態ニテ任意ノ通話ヲ試ミ之ニ對スル交換手應答時間其ノ他交換取扱振及通話ノ良否等ヲ左記順序ニヨリ監査スルモノトス

一　監査ノタメ試呼セントスルトキハ豫メ相手番號ヲ探問票適宜ノ個所ニ記入シ置キ電話機ノ受話器ヲ上クルト同時ニ時計ノ秒針ニ注意シ交換手カ「何番ヘ」ト應答スル迄ノ時間ヲ觀測ス

二　交換手應答シタルトキハ前記ノ相手番號ヲ稱呼シ又相手者出タルトキハ正當番號ニ接續サレタルヤ否ヤヲ確メタル後試驗ノ爲メ呼出シタル旨叮嚀ニ斷リ且ツ通話ノ良否ヲ問フヘシ

三　監視信號ヲ爲シ之ニ對スル交換手ノ應答時間ヲ觀測スヘシ試呼應答又ハ監視信號應答三十一秒以上ノモノ若ハ試呼監査ノ際相手番號違、誤切斷等重要ナル事故アリタルトキハ直ニ關係部長ヲ呼ヒ其ノ事實ヲ通報シ取調方ヲ要求シ探問票相當欄ニ其ノ要領ヲ摘記シ置クヘシ

前記取調方ヲ通知シタル事故ニ對シ歸局後外勤監査事故通報票（第二號樣式以下通報票ト單ニ事故稱ス）ニ記入シ第十五條ニヨリ關係課分局ニ通知スヘシ

（注意）

（イ）本件通話カ有料取扱ナル場合ハ其ノ相手者ト通話終了後直ニ部長ヲ呼出シ監査者名ヲ告ケ「何局何番ヨリ何局何番ヘ試呼通話一回」ト通報シ探問票適宜ノ個所ニ其ノ要領及受報者名ヲ附記シ置キ歸局後右通話ノ減算方ヲ關係課分局ニ要求スルモノトス

（ロ）該加入者（試呼發信電話）ニハ歸局後通話度數減算ノ手續ヲ爲スヘキ旨斷リ了解セシメ置クヘシ

第十一條　加入者ノ電話使用振ニ關シテハ左記各事項ニ就キ訪問ノ際ノ實況ニ依テ監察シ適宜注意指導スルモノトス但對手者ノ感情ヲ害セサル樣便宜試問スルコトヲ得

一　呼出方

二　言語
三　番號稱呼方
四　機械取扱振
五　其ノ他ノ事項

左記事項ニ就テハ特ニ注意監察スヘシ

一　報酬ヲ受ケ其ノ使用ニ供スル電話機ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クルモノニ賞與スルコトナキヤ

（注意）

市内通話ニ對シ度數料ヲ市外通話ニ對シ通話料ヲ成規ノ通リ申受クルハ本項ニ抵觸セサルモノトス

二　共同加入者相互間又ハ連接加入者本加入者間ニ於テ他ノ通話ヲ妨害スルコト無キヤ

三　電話番號簿、同訂正又ハ追加表ノ有無其ノ他電話使用上ニ關シ局側ヨリ配布シタル注意書等ノ備付ノ有無

第十二條　電話機其ノ他設備上ニ關シテハ左記事項ニ就テ實査シ異狀又ハ障害ヲ認メタルトキ或ハ加入者ヨリ之ニ關スル申告ヲ受ケタルトキハ直ニ電話ヲ以テ所屬局電話試驗掛ニ取調又ハ手配ヲ托シ探問票相當欄ニ其ノ要領及受報者名ヲ記入シ置クヘシ但シ此ノ場合簡單ニ處理シ得ルモノハ試驗掛ト打合セ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

一　電話機設置場所ハ完全ナリヤ又ハ塵埃濕浸等ノ虞ナキヤ

二　電話機、其ノ附屬品又ハ布線ヲ加入者側ニ於テ濫リニ移轉又ハ裝置替等ナシタル形跡ナキヤ

三　加入回線ニ竝リニ機械又ハ線條等ヲ連絡スルコトナキヤ

四　加入電話機又ハ其ノ附屬品ヲ毀損若ハ亡失セルコトナキヤ

五　其ノ他通話又ハ信號不良等交換「サーヴヰス」ニ影響スヘシト認メラルヽ設備上ノ缺點ナキヤ

前項ノ事故ニシテ手配又ハ修理ヲ要スト認メタルモノハ更ニ探問事故通知簿等ニ記入シ第十五條ニヨリ關係試驗掛ニ通知スヘシ

（注意）

電話機、其ノ附屬品又ハ室内布線等ニ就テハ左記事項ニ注意スヘシ

（イ）室内布線又ハ地中線亂雜ナルカ又ハ異狀ナキヤ

（ロ）電話線カ引込箇所又ハ室内ニテ電燈線瓦斯管等ニ接觸セルコトナキヤ

（ハ）保安器ノ「フユーズ」ヲ直通トセルコトナキヤ

（ニ）電鈴鳴音不良ナラサルヤ

（ホ）「コード」ノ捻回破綻等ノ爲メ雜音又ハ話切レナキヤ

（ヘ）「イーヤピース」又ハ「マウスピース」破損セルコトナキヤ

(ト)　送話又ハ受話不良ノコトナキヤ

(チ)　「フック、スキッチ」ノ働作不良ナラサルヤ

(リ)　扉開キ又ハ卓上電話機底板捻子弛ミ等ナキヤ

第十三條　探問票ハ探問シタル加入者電話番號一個毎ニ左記事項ニ就テ記入スヘシ

一　交換手取扱振及通話ノ良否

(1)　平常ノ狀況ニ就テ加入者ノ申告

其ノ事實及發生月日時刻等ヲ記入スヘシ

(2)　試呼監査ニテ發見シタル事故

單ニ其ノ件數又ハ要領ヲ記入シ括弧又ハ傍線ヲ附スルコト

二　加入者ノ使用振

加入者ノ電話使用上ノ缺點又ニ違法ト認メタル事項若ハ注意シタル事項等ヲ記入スルコト

三　試呼

(1)　試呼時刻

試呼ノタメ局ヲ呼ヒタル時刻ヲ記入スルコト

(2)　試呼應答時間

受話器ヲ取上ケタルトキヨリ交換手カ「何番ヘ」ト應答セル迄ノ經過時間(秒)ヲ記入スルコト

(3)　監視信號應答時間

監視信號ヲ初メタルトキヨリ交換手應答迄ノ經過時間(秒)ヲ試呼應答時間ノ左傍ニ記入スルコト

(4)　相手番號

試呼ノ相手番號ヲ試呼時刻ノ左傍ニ記入スルコト

(5)　參考事項

其ノ他試呼監査中ニ發生セル參考トナルヘキ事項ヲ記入スルコト

四　設備ノ良否

加入電話機其ノ他設備ノ良否及通話ノ良否ヲ記入スルコト

五　記事

前各項以外ノ事故其ノ他前各項ニ記入シ得サル部分ヲ記入スルコト

第十四條　記入濟ノ探問票ハ歸局後左記各項ニヨリ處理スヘシ

一　探問票ハ之ヲ課分局別ニ取纏メ巡回同時刻順ニ整理シ其ノ成績ヲ左記各項ニヨリ外勤監査成績日計表(第三號樣式)ニ記入シ日計ヲ爲スヘシ

(1)　日計表各欄ニハ探問票ノ各事項ヲ左記ニヨリ轉記スヘシ

A　電話番號＝探問票ニ記入シアル加入者電話番號

B　加入者氏名

C　試呼監査

(イ)　相手者番號＝參考事項欄ニ記入シアル被呼者番號

(ロ)　監査時分＝試呼欄ニ記入シアル試呼監査時分

(ハ)　應答時間(秒)＝探問票應答時間ノ欄右方括弧ノ無キモノ

(ニ)　監視應答時間(秒)＝探問票應答時間ノ欄左方括弧ノアルモノ

D　記事＝探問票交換手取扱振助加入者使用振ノ各事項欄又ハ參考事項設備ノ良否設備事故及記事欄ニ記入シアル各種報告事項又ハ加入者申告事項等ニ就キ其ノ要領ヲ簡明ニ轉記スルコト

但シ探問票交換手取扱振ノ各項又ハ記事欄ニ記入セル事項ノ內ニ印ノ付シアルモノハ加入者ノ申告セル事項ニ付轉記ノ際ニモ亦印ヲ附シ置クコト

E　事故及申告件數

日計表記事欄ヘ轉記シタルモノヽ件數ヲ次ノ通リ事故種別毎ニ區別掲記スルコト但シ探問票ノ當該事項ニ「印アルモノハ加入者ノ申告セルモノニ付其ノ件數ヲ朱書スルコト

(イ)　交換

探問票交換手取扱振ノ各欄參考事項欄又ハ記事欄ニ記入シアル交換手ノ事故又ハ之ニ對スル加入者申告ノ件數ヲ記入ス

(ロ)　設備

探問票設備ノ良否欄又ハ記事欄ニ記入シアル設備事項ノ件數ヲ局內、加入者宅內及線路ノ各別ニ掲記スルコト

(ハ)　加入者

探問票加入者使用振欄ニ記入シアル事項ノ件數ヲ掲記スルコト

(2)　(1)ニ依ル記入ヲ了シタルトキハ左記ニヨリ探問成績ヲ計算スヘシ

(イ)　加入者＝名義別合計數ヲ記入スルコト

(ロ)　電話番號＝電話番號數ヲ記入スルコト

(ハ)　總度數＝應答監視共測秒セル回數ノ合計

(ニ)　總秒數＝應答監視共測秒セル秒數ノ合計

(ホ)　平均秒＝應答監視各別ニ總秒數ヲ總度數ニテ除シタル平均秒數ヲ記入スルコト但シ兩者共一分

ヲ超過セルモノハ平均計算ヨリ除外スヘシ

(ヘ)　十秒以上＝應答監視各別ニ十秒以上ノ件數ノ合計ヲ記入スルコト

(ト)　同％＝應答監視各別ニ前號十秒以上ノ件數ニ百ヲ乘シ夫々ノ總度數ニテ除シタル商ヲ記入スルコト

(チ)　事故各欄ノ小計＝事故及申告件數各欄毎ニ小計ヲ爲スコト但シ探問事故ハ上段ニ黒書シ申告ハ下段ニ朱書スヘシ

(リ)　探問事故ノ合計

1　交換＝交換手事故ノ合計ヲ記入スルコト

2　設備＝設備事故ノ合計ヲ記入スルコト

3　加入者

(ヌ)　探問事故合計％＝各種事故合計ノ探問件數(加入回線數)ニ對スル割合ヲ記入スルコト

(ル)　時間別應答(監視應答)＝秒數別ニ件數ヲ記入スルコト

二　巡回探問セル加入者電話番號ヲ町別探問進行表(第四號樣式)(以下單ニ進行簿ト稱ス)ニ記入シ進行表相當欄ニ探問件數ヲ記入スヘシ

三　探問票ハ日計表及進行表ト共ニ監査主任ヘ提出スヘシ

第十五條　第十條第三項、第十二項ニ依リ通知スヘキ事故ハ左記ノ通リ處理スヘシ

一　事故通報票又ハ同通知簿ニ探問月日、事故ノ要領、關係電話番號及關係課分局又ハ掛ノ受報者名等ヲ記入スヘシ

二　第十條第三項ニ依ル事故通報票ハ歸局後關係局交換監督者ニ送附シ事故ノ調査及處理ノ概要記入ノ上返戻ヲ求ヘシ

三　事故通報票又ハ同知簿ヲ返戻サレタルトキハ關係探問票ニ處理月日ヲ記入シ置クヘシ

(注意)　別項外勤監査事故通報手續(大正十一年十月十二日)ヲ參照スヘシ

第十六條　探問成績月計表(第五號樣式)ハ毎月左記各事項ニ就キ各局別ニ其ノ平均成績ヲ計算シ外勤監査成績總括表(第六號樣式)ノ資料トスルモノトス

一　探問件數、同上町名數及探問件數ト總加入者數トノ比

二　試呼應答時間　第十四條第一號(2)ニ準シ計算スルコト

三　監視信號應答時間

四　各種事故百分率第十四條第一號(2)ノ各別ニ其ノ總件數ノ探問總件數ニ對スル割合

第十七條　加入者探問ノ巡回件數及割合等ハ左記標準ニ據ルヘシ

一　一局ニ對スル一日ノ探問件數ハ拾件以上參拾件以內タルコト

二　一局ニ對スル一ヶ月間探問件數ハ其ノ局總加入者數ノ三十分ノ一以上十五分ノ一以内トシ二十分ノ一ヲ以テ標準トス

三　各町（加入者密集地ニテハ丁目毎）ニ於ケル一回ノ探問件數ハ其ノ町加入者數ノ二分ノ一タルヘシ

四　一ヶ年ニ全加入區域ヲ二巡スル割合ヲ以テ全加入者ニ亘リ一回宛探問スルヲ標準トス

特別ノ事由アル場合ノ外六ヶ月以内ニ同一加入者ヲ二度以上探問セサルモノトス

五　各局別探問件數ハ成ルヘク毎月各局加入回線數ニ比例セシムルヲ要ス

第三章　自動電話巡回

第十八條　自働電話ノ巡回ハ全部ニ亘リ毎月一回以上之ヲ爲スモノトス但シ平常加入者探問ノ序ヲ以テ施行スルコトヲ得

第十九條　自働電話ノ巡回點檢及其ノ結果ハ左記各項ニヨリ處理スヘシ

一　巡回ノ際ハ第八號ニ準據シ主トシテ左記各號ヲ注意點檢シ其ノ結果ヲ探問票ニ記入スヘシ

(1)　電話番號簿及掲示ノ有無又ハ其ノ完否

(2)　通話及信號ノ良否

(3)　交換手應答時間其ノ他交換取扱振ノ良否

二　前項ノ探問票ハ歸局後之ヲ局別ニ取纏メ巡回時刻順ニ整理シ其ノ成績ハ自働電話巡回成績ハ報告表（第七號樣式）ニ記入報告スヘシ

三　自働電話巡回點檢ノ際發見シタル事故ニシテ相當處理ヲ要スルモノハ事故通報票又ハ同通知簿ニヨリ夫々關係ノ向ニ通知スヘシ

第二十條　自働電話巡回成績ハ前條ニ依リ報告シタルモノヲ毎月一回取纏メ第十六條ニ準シ計算報告スヘシ

第四章　私設電話巡回

第二十一條　私設電話ノ巡回監査ハ其ノ全部ニ亘リ毎年二回以上之ヲ爲スモノトス但シ加入者探問ノ序ヲ以テ施行スルコトヲ得

第二十二號　私設電話ノ巡回監査ハ左記事項ニ就キ實査シ其ノ結果ヲ私設電話巡回監査報告表（第八號樣式）ニ記入スヘシ

一　私設交換設備

(1)　私設電話中ノ一二ヲ選ミ私設交換機ヨリ通話試驗ヲナシ交換機、電池等ノ保守狀況ヲ視察スルコト

(2)　接續紐並電話機等ノ每朝試驗ノ要領ヲ私設交換手ニ就テ問糺スコト

(3)　試驗記錄簿ヲ檢シ保守修理ノ完全ニ施行セラレアルヤヲ確ムルコト

（注意）右ニ關シ特ニ左ノ點ヲ注意スヘシ

(イ)蓄電池使用ノモノニアリテハ其ノ充放電ニ關スル記錄及其ノ際ニ於ケル放電電壓ヲ檢査スルコト

(ロ)蓄電池使用ノモノニアリテハ其ノ手入又ハ取替月日

(ハ)私設交換機ノ定期手入（毎月一回施行スヘキモノ）ノ有無並其ノ記錄

二　私設交換手

(1)私設交換取扱者ハ其ノ認可證ヲ有スルモノナリヤヲ確ムルコト

(2)交換技倆

(イ)交換取扱ニ關スル智識ヲ有スルヤヲ監査スルタメ二三ノ試問ヲナスコト

(ロ)交換取扱ノ實況ヲ視察スルコト

(3)私設交換手負荷ノ適否

(イ)私設交換手人員ト交換座席數トノ關係

(ロ)視察當時ニ於ケル最繁時總取扱數ノ概數

(ハ)交換取扱以外ノ雜務ノ有無並種別分量等

(4)交換取扱上私設交換手トシテノ局側交換取扱振ニ關スル申告又ハ希望

三　雜事項（主トシテ主人又ハ電話掛ニ就テ調査スルコト）

(1)電話掛ノ氏名及位置

（注意）電話掛トハ左ノ事項ヲ掌ルモノヲ謂フ

(イ)該加入者ノ電話加入ニ關スルコト

(ロ)私設交換設備ノ保守並取扱手續ニ關スルコト

(ハ)私設交換取扱者ノ取締及身分進退ニ關スルコト

(2)私設交換機類保守從事者

(イ)保守從事者ノ住所氏名

(ロ)修理方通知方法

(ハ)修理工賃ノ仕拂方法

(3)近キ將來ニ於テ私設交換機又ハ電話機ノ變更又ハ增設等ノ意志ノ有無

(4)私設交換設備者トシテ局側取扱振ニ關スル申告又ハ希望

第二十三條　私設電話巡回ノ結果處理ヲ要スル事故ヲ發見シタルトキ關係ノ向ニ通知スヘシ他ノ課分局掛又ハ加入者ト交涉ヲ要スルトキハ一應監査主任ト打合ノ上之ヲ爲スヘシ

第二十四條　私設電話巡回監査成績ハ毎月一回之ヲ取纏メ第十六條ニ準シ計算報告スヘシ

外勤監査事故通報手續

一　事故ノ性質上即時取調、試驗又ハ手配ヲ要スルモノニ限リ一先ツ電話ニテ通知シ打合ヲ爲スヘシ
特ニ重要ナリト認メタル事故ハ第五項イ號ニ準シテ處理スヘシ
二　受報者ハA臺何部又ハ某工手等ノ如ク其ノ責任ヲ明ニスヘシ
實際通報ノ際應答曖昧ナル場合ハ更ニ上級責任者ノ應答ヲ要求スルモノトス
三　總テ事故通報票ヲ作成シタルモノ若ハ同通知簿ニヨリ通知シタルモノハ探問票ニ單ニ要領又ハ件數ノミヲ記入シ「別途通報濟」ト附記シ置クコト
四　監査者ハ單ニ報告機關ノ立場ニアルモノニシテ總テ事實ノ儘ヲ報告スヘキヤ勿論ナルモ事故處理ニ關シテハ責任ヲ有スルモノニアラサルニヨリ加入者ニ對スル應對ヲ誤ラサルヲ要ス
五　電話機其ノ他ノ設備不良ノ事故通報方ニ關シテハ左記ノ例ニ依ルヘシ
(イ)　外勤監査者第十二條左記第一號乃至第四號ニ該當スル事故ヲ發見シタルトキハ即時電話ニテ監査課長又ハ監査主任ニ通知シ處理方ニ就テ打合ヲ爲スコト
本件事故ハ歸局後別紙ニテ詳細報告スルコト
(ロ)　左記事故ニシテ急速處置ヲ要スト認メタルモノハ即時電話ニテ夫々擔當試驗掛ニ通知シ試驗又ハ手配方打合ヲ爲シ尙ホ歸局後通知簿ニ記入廻付スルコト

1　電鈴鳴音不良等ノ爲メ局ヨリ信號ヲ聞洩ラス虞アルモノ
2　接續紐雜音又ハ話切レノ爲メ通話上支障アルモノ
3　送話又ハ受話不良ノ爲メ通話困難ナルモノ
4　「フックスキッチ」ノ働作不良ニテ受話器外シ又ハ話切レ等ノ原因トナル虞アルモノ
5　電話機ノ部分品破損シ居ルタメ取替ヲ要スルモノ
加入者ノ供給ニ係ル電話機其ノ他部分品ノ取替ヲ要スルモノハ代品購入ノ上電話試驗掛ヘ提出スヘキ旨加入者ニ指示シ置クコト
此場合加入者ニ於テ其ノ儘使用シタキ旨申立タルトキハ電話利用ノ性質上一般ノ迷惑トナルヲ以テ其ノ儘放任シ難キ理由ヲ說明シ至急購入方懇示スルコト
(ハ)　左記事故アリタル場合ハ歸局後通知簿ニ依リ關係ノ向ヘ通報スルコト
1　保安器、地氣線又ハ宅內布線等不良ニシテ保安上又ハ設備上修理ヲ要スルモノ
2　(イ)(ロ)項ノ事故ニシテ即時處置ヲ要セサルモ事故ノ性質上重要ナルモノ
(二)　(イ)(ロ)(ハ)ノ各項又ハ其ノ他ノ事故ニシテ輕微ナルモノハ探問票ニ記入シ置キ通報ヲ省略スルコト

（第一號樣式）

月　日

電話加入者探問票

局番	町 氏名 / 區 町
交換手取扱振	加入者使用振
夜答ノ遅速	呼出方
切斷ノ遅速	言語
言語ノ良否	番號稱呼方
接續誤リ	機械取扱
二重接續	其ノ他事項
話中切斷	
其他ノ取扱振	
試呼	午前後　時　分　秒 / 夜答時間 / 參考事項
設備ノ良否	
記事	

（第二號樣式）

監査課長　　監査主任　　擔當工手

外勤監査事故通報票

電話番號	局　番 / 加入者氏名
通報時刻	月　日　午前後　時　分 / 關係課分局掛 / 受報者名
事故要領	
課分局長	主事 / 主任技手 / 調査者及處理者
調査處理要領	
記事	

（第三號樣式）

局電話外勤監査成績日計表

大正　年　月　日　曜日　天候　巡回工手

電話番號	加入者氏名	試呼監査				事故及申告件數											記事
		切手番號	監査時分	應答時間（秒）	監視應答時間（秒）	交換							設備			加入者事故	
						應答遅延	切斷遅延	接續誤リ	言語不良	二重接續	話中切斷	其他取扱	局内	線路	加入者宅内		

探問件數		總度數	平均（秒）	十秒以上	全%
（加入者）	（電話數）	總秒數			

探問事故		時間別（應答）（監視應答）					
交換	設備	〃3	〃5	〃10	〃30	〃60	〃60以上
計							
%							

概評

局長　監査課長　分局長　課　主事

電話外動監査成績月計表　　局　　月分

（第五號様式）

探問月日	町名	探問件數	加入者申告ニヨル探問事故											試呼狀況				摘要
			應答	遲延	切斷	言語不良	接續誤	二重接續	話中切斷	其ノ他ノ取扱	合計	加入者事故	設備ノ不良	總度數	總秒數	平均秒數	十秒以上ノモノ	
			應答	監視	遲延													
合計																		
平均又ハ%																		
備考																		

（第四號様式）

電話探問町別進行表

局區					
町名					
加入數					
探問件數					
探問月日					

（第六號様式）

供覽　局長　監査課長　課　主任

普通巡回	局別	探問回數	探問件數	試呼應答			監視應答			十秒以上				應答遲延	切斷遲延	錯續誤	言語不良	二重接續	話中切斷	其ノ他	合計		加入者申告		設備不良		記事
				總度數	總秒數	平均				試呼應答		監視應答															
										數	%	數	%								數	%	數	%	數	%	
	本局																										
	東局																										
	南局																										
	西局																										
	計又ハ平均																										

自働電話巡回	局別	巡回度數	巡回度數	應答時間			十秒以上		應答遲延	切斷遲延	接續誤	言語不良	二重接續	話中切斷	其ノ他	合計		揭示故事		設備不良		記事
				總度數	總秒數	平均	數	%								數	%	數	%	數	%	
	本局																					
	東局																					
	南局																					
	西局																					
	計又ハ平均																					

私設電話巡回	局別	巡回度數	巡回件數	總度數	總秒數	應答平均時間	電話機		機械保守事故數	最繁時呼數（一席平均概數）	交換取扱者員數		記事
							卓上	普通			認可者	不認可者	
	本局												
	東局												
	南局												
	西局												
	計又ハ平均												
備考													

市内交換課長
東分局長
南分局長
西分局長

私設電話巡回監查報告

監查者

（第六號樣式）

監查年月日	大正　年　月　日　前後　午　時　分			
加入者名				
交換機種類	共電式 磁石式	回線付臺席		
加入電話番號				
私設電話機數	卓上	普通	合計	
接續組對數	局私設間	私設相互	合計	
最繁時取扱數				
電話掛氏名				
保守從事者				
機械類保守狀況 局線及私設線				
機械類保守狀況 交換手電話機接續組等				
機械類保守狀況 入手交換機試驗及	每朝試驗 有無	最近手入　月　日		
機械類保守狀況 電池狀況	乾電池　個取替　月　日	蓄電池電壓　V充電　月　日		
機械類保守狀況 摘要				

私設交換取扱者	氏名	認可年月日	經歷	技倆及性質	摘要
	雜務				
記事					

自働電話巡回成積報告

（第　號）　局　月　日工手

供覽

巡回月日	設置場所	番號	監查時刻	應答時間	十秒以上	交換事故	機械設備事故	掲示事故	番號違	通話者	備考
			時 分								
				平均							
合計											

局長
監查課長
市內交換課長
分局長
主任
主事

（第七號樣式）

第三類　市内交換

◉市内電話交換狀況報告ノ件

（大正十二年十月十日 名規第六六一號）

從來提出ノ調書ヲ見ルニ概ネ内容杜撰ニシテ計數ノ正確ヲ缺キ事業計畫上ノ資料トナシ難ク寒心ノ至リニ付自今呼數ノ採算ニ關シテハ左記ヲ參考トシテ計數ノ正確ヲ期スルコトニ努メラレ度

（一）呼數ニ計上スヘキモノ

（イ）一般加入者ニ接續シタルモノ　加入者「ジヤック」（以下ヘノ）ノ接續ヲ以テ加入者ニ接續ト見ルヘク復局地ニ於ケル出中繼交換ノ場合ハ出中繼「ジヤック」ヘノ接續ヲ以テ足ル但シ（二）ノ（リ）ノ如キハ當然呼數計上ヨリ除外スルヲ正當トス

（ロ）監督又ハ局用電話無料加入電話ニ接續シタルモノ　局用電話トハ五百番、六十番、案内臺、記錄席等局内ニアルモノヲ指シ無料電話トハ無料電話規程ニヨルモノニシテ官廳用ト住宅用トノ別ナク又通話局ヲモ含ム

（ハ）相手加入者話中ノモノ　直接交換手カ試驗シテ斷ハルモノ又ハ複局地ノ話中「ジヤック」ニ接續シテ斷ハルモノ

（ニ）相手加入者通話停止、缺番、電話機取外、障碍

等ノタメ斷ハレルモノ

(ホ) 加入者ノ錯誤又ハ過失ニテ更ニ接續若ハ接續替シタルモノ　實際ニハ頗ル正確ヲ期シ難キモ加入者自ラ申出又ハ交換手ニ於テ明ニ加入者ノ錯誤タルコトノ判明シタル場合ヲ謂フ

(ヘ) (二) 呼數ニ計上セサルモノ

(イ) 空札又ハ空「ランプ」　交換手應答シタルニ加入者ヨリ何等ノ請求ナキモノニシテ其ノ原因カ加入者ノ引込、機械ノ故障、交換手ノ取扱方不良等ニ關係ナキモノトス

(ロ) 「鈴ガ鳴リタリ」又ハ「呼バレタリ」ト云フモノ　此等ノ申出アリタルノミニテ番號ヲ告ケス接續ノ手繼ヲ要セサルモノニシテ此ノトキ主事補、監督等ニ申告トナルモノハ二次トシテ計上スヘキモノトス

(ハ) 交換手限リ處理シ得ヘキ試驗ノ依賴　工夫又ハ試驗掛員等ヨリ「わかりましたか」又ハ「信號して下さい」等ノ申出ヲ含ム

(ニ) 時間及火事ニ關スル問合　時間ノ問合ノ如キハ一面通話トシテ支障ナキカ如キモ未タ我國ノ正規交換ト見做スニ至ラス故ニ計上セサルモノトス

(ホ) 無效應答　複式交換機裝置局ニ於テ一箇年ノ呼出ニ對シ同時ニ同人以上ノ交換手カ應答シタル場合ノ一箇以外ノ應答ヲ謂フ

(ヘ) 「話中切レタリ」ト云ハレ接續セサリシモノ

(ト) 「話中切レタリ」ト云ハレ更ニ接續シタルモノ　(ヘ)、(ト)ハ接續スルモ接續セサルモノトス加入者ヨリ申出ナク交換手ニテ氣付キタルモノモ同樣トス

(チ) 氏名ヲ問ハレ又ハ座席交換手ニテ直ニ處理シ得タル輕易ナル申告　氏名、執務番號等ヲ問ハレタルトキ又ハ「遲いな」「少し氣を付けて呉れ」ノ如キ輕キ程度ノ申告ヲ含ム

(リ) 誤接續ノ申出アリテ接續替シタルモノ　加入者表示器又ハ「ランプ」ニ應答シタルト終話表示器又ハ監視「ランプ」ニ應答シタルトノ別ナク且ツ新シク接續シタルト接續替シタルトヲ問ハス

(ス) 被呼者ヨリノ二次請求ヲ斷ハレルモノ　度數制施行地ヲ主トシ其ノ他ノ複局地ニ於テモ被呼者ヨリノ二次請求ヲ斷ハレルモノヲ謂フ

(ル) 呼出信號ノ督促　不出等ノタメ「信號して下さい」ト申出アリタル場合又ハ交換手ニテ自ラ再呼出信號ヲナス場合ニテモ命令線ニヨルト直接之ヲナストヲ加入者カ番

號ヲ告クルト告ケサルトニ論ナキモノトス

(ヲ)　話不明相手不出等ニテ　勿論計上スヘカラサルモノナルモ此ノトキ加入者ヨリ更ニ他ノ番號ヲ申出
接續紐又ハ中繼線ヲ變　タルトキハ當然計上スヘキモノトス
更シタルトキ

(參　考)

(1)　代表又ハ連續番號ハ接續ヲ終ル迄ハ全部ヲ一箇ノ「ジヤック」ト見做スコト

(2)　二箇以上ノ番號ヲ同時ニ稱呼シ接續ヲ要求セラレタルトキハ其ノ接續ヲ終ル迄ハ前項同樣ニ處理スルコト

以上二項ニ於テ「其ノ接續ヲ終ル迄ハ」トアルハ代表番號四箇ニ對シ三箇話中ニテ四箇目ニ接續シタルトキハ一トナスモ一度接續シタルニ不出ニテ更ニ他ノ「ジヤック」ニ接續替シタルトキハ二トナス即チ接續後ハ之ヲ一ト見做サヽルモノトス

(3)　二次請求ノトキハ二次ノ呼數ノ種類ニ依リ各其ノ該當スルモノニ應シテ處理スルコト
而シテ「二次」トハ加入者局ヲ呼ヒ一要求ニ對スル處理ヲ終リタルニ其ノ加入者ヨリ引續キ何等カノ要求アリタルヲ謂ヒ其ノ請求者タルト將タ復接續ノ要求ナルト其ノ他ノ問合ナルトヲ問ハス

(三)　呼數ニ計上スヘキ時機

呼數ノ計上ハ加入者ヨリ接續ヲ要求セラレタルトキ直ニ計上スヘキモノナルモ斯クテハ接續働作ヲ中斷スルノ嫌アリテ交換上錯誤ヲ生シ易シ故ニ接續ヲ要求セラレ夫レニ對スル處理ヲ終リタルトキ換言スレハ正當ナル手續ニ於テ呼出「プラグ」ヲ持チ之ヲ放シタルトキ直ニ計上スルヲ可トスヘシ

(省　略)

◉「プラッギング」練技規程（當局所定）

第一條　「プラッギング」練習、技倆檢定及競技ハ之ニ依ッテ交換技倆ヲ向上セシメ作業能率ノ增進ヲ圖ルヲ目的トス

第二條　各局（交換課及各分局チ云フ以下同ジ）ニ於テハ其ノA及B臺擔當者ヲシテ平常努メテ「プラッギング」練習（以下單ニ練習ト稱ス）ヲ爲サシメ且第五條ニ據ル技倆檢定ヲ施スヘシ

第三條　練習ハ各局ニ於テ競技方法ニ準シ施行シ其ノ成績（競技成積ニ準シテ採點ス）ヲ「プラッギング」練習者成績簿（第一號樣式）ニ記錄シ置クヘシ

第四條　技倆檢定ハ各局ニ於テ每年前條ノ練習者ニ就テ施行シ其ノ成績ニ應シテ別ニ定ムル「プラッキング」檢定證（以下單ニ檢定證ト稱ス）ヲ授與ス

第五條　技倆檢定ハ左記各項ニ據リ施行シ之ニ合格シタルモノハ該等級ノ技倆ヲ有スルモノト認定ス

一　檢定ハ競技方法ニ準シ被檢定者ノ技倆ニ應シ別記等級ノ速度ニヨリ三分間連續稱呼シ其ノ全部ヲ完全ニ挿入シ得ルコト

二　前項ノ檢定ヲ同一人ニ對シ二回以上施行シ每回九十點以上ノ成績（競技成積ニ準シテ採點ス）ヲ得タル時ハ該等級

檢定ニ合格シタルモノトス

三　檢定ハ技倆同程度ノモノ數名ヲ組合セ又ハ單獨ニテ施行スルコトヲ得

第六條　技倆檢定證ヲ有スルモノニハ其ノ技倆ニ應シ該等級ノ有技者タルコトヲ表示スル徽章（以下單ニ等級章トス）ヲ交付シ在局中常ニ之レヲ佩用セシム

技倆等級ノ異動セシ場合ハ舊等級章ハ之ヲ返戻セシルモノトス

第七條　競技ハ各局ニ於ケル有技者ヲ參加セシメ對局競技トシテ每年凡ソ一回之ヲ施行ス

第八條　競技ハ「プラッギング」練習臺ヲ使用シテ施行ス

此ノ場合ニハ「マルチプルジャック」ハ五千番迄トシ「パネル」ノ配置ハA、B臺兩樣ノ中競技者ノ平素練習セルモノヲ使用スルモノトス

第九條　競技ハ審査委員立會ノ上競技委員ニ依リテ施行ス

競技委員ハ主事補以上ノ女子幹部中ヨリ選定スルモノトシ監査課員、養成掛員及參加各局ヨリ其ノ都度任命ス

審査委員ハ各局主事（監査、養成ノ技手チ含ム以下同シ）以上ニ於テ之ニ當ルモノトス

第十條　競技施行中重大ナル事故アリタルトキハ立會審査委員ノ指揮ニヨリ再競技ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十一條　競技方法ハ左記各項ニ據ル

一　同級競技者多數アル場合ハ三名宛ヲ一組トシ成ルヘク對局的ニ組合セ競技セシム

二　各競技用ノ電話番號表ハ同一ノモノニ就キ稱呼用及對照用各三通ヲ準備シ稱呼用ハ甲、乙競技委員及立會審査委員ニ分配ス

三　甲委員ハ競技者ノ技倆ニ應シ「メトロノーム」ニテ速度ヲ調整シツヽ送話器ヲ通シテ表ノ電話番號ヲ三分間連續稱呼ス

四　競技者ハ受話器ニテ甲委員ノ稱呼ヲ聽取シツヽ「ジヤック」ノ位置ニ依リ相當色別ノ「プラグ」ヲ取リ之ヲ挿入スルモノトス

五　「プラグ」色別ハ「パネル」ニヨリ（A臺ハ左右三「パネル」宛ト前面二「パネル」、B臺ハ左右前面各二「パネル」宛ニ區分ス）ニ區分シ、白色ハ前面、緣色ハ左方、赤色ハ右方ノ別ニ使用スルモノトス

六　乙委員ハ競技者ト同シク甲委員ノ稱呼ヲ聽取シ居リテ次ノ事故アリタルトキハ之ヲ番號表ニ記入スルモノトス

A　番號稱呼誤リ　當該番號ノ傍ニ誤稱番號ヲ記入スルコト

B　番號稱呼不明　當該番號ニレ印ヲ附記スルコト

七　甲乙以外ノ委員ハ競技ヲ監視シ甲委員ノ稱呼ヲ了リタルトキハ各自ニ各競技者ノ品位點（二十點ヲ以テ滿點トス）ヲ考査採點スルモノトス

八　稱呼ヲ終了シタルトキハ挿入木栓ニ就キ電話番號表ト對照シ競技者毎ニ挿入洩、挿入誤、木栓色違及木栓拔ケ等ヲ點檢ス

九　前號ノ點檢ヲ終リタルトキハ各競技者毎ニ競技成績票（第二號樣式）ヲ作成所定事項ノ記入ヲ爲シ置クヘシ

第十二條　競技成績ハ左記各號ニヨリ採點シタル得點ヨリ減點ヲ差引タルモノヲ以テ之ヲ定ム

一　挿入得點

甲委員ノ稱呼時間中繼續挿入シ得タルモノハ得點八〇點ヲ與フ

二　事故減點

左ノ事故一件毎ニ下記點數ヲ減ス

(1)　挿入誤　二點

(2)　挿入洩　二點

(3)　木栓色違　同　〇、五點

(4)　木栓拔ケ　同　〇、五點

三　品位得點

品位得點ハ第十一條第七號ニ據リ各委員ノ品位採點ヲ平均シタルモノトス

第十三條　競技成績審査ノタメ監査課長並ニ關係課分局長ハ競技成績審査委員トシテ之レニ參與ス

此ノ場合監査課長ヲ審査委員長トス

競技成績審査員委會ハ左記各號ニ據リ競技成績ノ審査シ其ノ順位ヲ決定ス

（甲）個人間ノ順位

一　前條ニヨリ採點シタル競技成績ニ基キ成績順位ヲ定ム

二　競技成績點同點ナルトキハ勤續年月ノ少ナキ者ヲ前位トシ勤續年月同樣ナルトキハ品位得點ノ大小ニヨリ成績順位ヲ定ム

三　前二項ニヨリ順位決定セサルトキハ審査委員之ヲ評定ス

四　勤續年月ニヨリ一般的ニ甚タシキ競技成績點ノ懸隔アル場合ハ審査委員ノ評定ヲ以テ勤續年月ノ長短ニ據リ加減スルコトアルヘシ

（乙）局間ノ順位

個人間ノ競技成績順位ノ審査決定ノ結果ニヨリ各審査委員ノ評定ニ據リ課又ハ分局ヲ單位トスル局間ノ競技成績順位ヲ定ム

各審査委員間ノ評定ハ一般的競技成績又ハ其ノ他ノ參考事項ノ調査ヲ基礎トシテ多數決ニヨルモノトシ若シ贊否同數ノ場合ハ審査委員長ノ裁決ニヨル

第十五條　競技成績審査ノ結果其ノ成績優良ナルモノニハ褒狀ヲ授與シ又ハ賞與ヲ爲スコトアルヘシ

競技成績優勝課、分局ニ對シテハ優勝證又ハ優勝旗ヲ授與スルコトアルヘシ

優勝旗ハ次期ノ競技會迄當該課分局ニ保持シ競技會ノ都度之ヲ返納セシメ次ノ優勝課、分局ニ交付ス

第十六條　局長ハ本規程ニ據ル「プラッギクグ」競技及技倆檢定ニ關スル全般ノ事務ヲ總理ス

競技會及技倆檢定ニ伴フ一般的事務ニシテ本規程ニ別段ノ定ナキモノハ監査課及庶務係ニ於テ分擔處理ス

第十七條　技倆檢定證及ヒ褒狀、優勝證ハ第三號乃至第五號樣式ノ如ク之ヲ定ム

技倆等級章及競技優勝旗ハ第六號及第七號樣式ノ如ク之ヲ定ム

附則

「プラッギング」技倆檢定手續

一　各課分局ニ於テ規程第五條ニ據ル「プラッギング」技倆檢定ノ試驗ヲ爲サントスルトキハ豫メ之ヲ監査課ニ通報シ他ノ課又ハ分局ヨリ審査委員（規程第十條第三項ニヨル）ノ立會ヲ求ムルコト

二　檢定試驗ノ成績ハ競技成績票ニ記入シ其ノ都度即時採點スルコト

三　採點ノ結果檢定ニ合格シタルモノハ其ノ等級及氏名等ヲ明記シタル調表ヲ作成シ成績票ト共ニ監査課

ニ送付スルコト

四　監査課ニ於テハ前項合格者調表ニヨリ檢定證ヲ作成シ關係課、分局長、監査課長ヨリ局長迄閲覧ヲ了シタル上之ニ等級章ヲ添付シ所屬課、分局長ニ送付ス

五　關係課分局ハ檢定證ニ等級章ヲ添ヘ之ヲ當人ニ交付スルコト

六　規程第七條ニ該當スルモノハ關係課、分局長ヨリ監査課長經由局長ニ報告スルコト

（別記）

プラッキング技倆等級表

等級	一分間ノ稱呼數
一級	四五以上
二級	四〇以上
三級	三五以上
四級	三〇以上
五級	二五以上
記事	

（第一號樣式）

プラッキング練習者成績簿

課分局長	主事	練習委員	練習月日	級別	稱呼時間	完全事故			品位點	成績點	記事
						挿入誤	挿入洩	色違ブラグ抜ケ			

氏名

年　月　日　拜命

（第二號樣式）以下省略

◉度數計調査手續（當局所定）

第一章　加入者度數計ニ對スル檢査

一　加入者度數計回轉ノ正否ヲ檢査スルタメ各度數計ニ對シ毎月二回以上其ノ指數ヲ調査スヘシ

二　一度ノ檢査數ハ一千個トシ度數計檢査進行表（第一號樣式）ヲ備ヘ全加入者ニ對シ平等ニ之ヲ行ヒ且各檢査期間ヲ成ルヘク等シカラシムヘシ

三　指數調査ノ際ハ先ツ各度數計ヲ通觀シ覆ノ脫出セルモノ又ハ番號札ノ脫落セルモノアルトキハ其ノ旨主事ニ申出ツヘシ

四　指數ヲ調査スルニハ調査者二名ヲ以テ一組トシ一名ハ指數ヲ讀上ケ他ノ一名ハ之ヲ度數計檢査表（第二號樣式）ニ記入シ百個ヲ終リタル毎ニ調査者ノ位置ヲ反對トシ指數ノ記入ニ誤ナキヤヲ對査スルモノトス

本項對査ノ場合指數ノ進ミ居ルモノアルモ其ノ差カ五度以内ナルトキハ實際通話アリタルモノト見做シ訂正ヲ要セス

五　指數中同位ノ二數字カ一部分ツヽ現レ居ルモノハ大部分現レ居ル數ヲ檢査表ニ記入シ其ノ直下並ニ右方欄外ニ×印ヲ記入シ置クヘシ

六　空番、共同線加入、連接ヲ有スルモノ（連接本加入合算ヲ承諾セルモノヲ除ク）又ハ無料電話等度數計ヲ使用セサルモノハ指數調査ニ先チ檢査表通話度數欄ニ赤色斜線ヲ引キ置クヘシ

本項ノモノト雖モ指數調査ノ場合ニハ參考ノタメ其ノ指數ヲ記入スヘシ

七　指數調査ノ場合ニハ讀上者ハ電話番號十位ノ更新毎ニ番號ヲ稱呼シテ記入者ニ注意シ檢査表ノ電話番號ト吻合スルヤヲ確ムヘシ

八　上半部ニアル度數計指數ヲ調査スルニハ必ス踏臺ヲ使用スヘシ

九　指數調査ヲ終リタルトキハ檢査進行表相當欄ニ調査月日ヲ記入スヘシ

一〇　檢査表ニヨリ今期末ノ指數ヨリ前期末ノ指數ヲ差引キ其ノ差ヲ通話度數欄ニ記入スヘシ

但シ赤色斜線ノ引キアルモノハ記入ヲ要セス

本項計算ニ方リ今期末指數カ前期末指數ヨリ小ナルトキハ今期末指數ニ一萬ヲ加ヘタル上其ノ差ヲ算出スヘシ

一一　今期通話度數ヲ前期通話度數ニ比較シ左ニ該當スルモノアルトキハ檢査表通話度數欄ニ赤色レ印ヲ記入スヘシ

(一)　前期ニ比シ通話度數三分ノ一以下ノモノ

(二)　前期ニ比シ通話度數三倍以上ノモノ

一二　前項ニヨリ赤色記號ヲ付シタルモノハ一應之ヲ當該度數計ト對照シ念ノタメ指數記入ニ誤リナキヤヲ確ムヘシ

一三　前項對照ヲ終リタルモノ及第五項ニヨル記號アルモノハ電話番號、前期末並ニ今期末ノ指數及兩期ノ通話度數ヲ度數計事故調査表（第三號樣式）ニ轉記スヘシ但シ第五項ニヨル記號アルモノハ事故調査表試驗個所欄ニ「何位數字現出方不良」ト記入スヘシ

一四　今期中ニ左記事項アリテ之カ爲メ通話度數ニ著シキ變動ヲ來シタルモノト認メラルヽモノハ事故調査表備考欄ニ夫々下記略號ヲ記入シ試驗個所欄ニ斜線ヲ引クヘシ

略號

名變	加入名義變更
移轉	機械設置場所移轉
開通又ハ取消	加入者開通又ハ加入取消
轉出又ハ轉入	轉出又ハ轉入
種變	加入種類變更
撤去	機械一時撤去
切替	複式「ジャック」切替
停止	通話停止
取替	度數計取替

（概要ヲ摘記スルコト）

其ノ他特殊ノ原因

一五　第一〇項ニヨル計算ノ際今期通話度數零ノモノヲ發見シタルトキハ直ニ第一二項乃至第一四項ノ手續ヲナシタル上當該加入者度數計ノ現在ノ指數ヲ取調ヘ置キ應答「ジャック」ヨリ度數計ヲ働作セシメテ其ノ前後ニ於ケル指數ヲ比較シ働作完全ナリヤ否ヤヲ檢査シ完全ナルトキハ試驗働作ニ對スル減算通話票ヲ作成シ事故調査表試驗個所欄ニ斜線ヲ引キ且備考欄ニ「働作完全」ト記入スヘシ又働作不完全ナルトキハ之ニ對スル障碍通知書（樣式ハ交換機試驗手續中ニ之ヲ定ム）ヲ作成シ事故調査表試驗個所欄ニ斜線ヲ引キ且備考欄ニ「障碍ニ付キ通知」ト記入シ通知書ハ主事ヲ經テ保守掛ニ送付スヘシ

一六　事故調査表試驗個所欄ニ斜線ノ引キアルモノ以外ニ對シテハ度數計試驗上重キヲ置クヘキ點ヲ判定シ之ヲ試驗個所欄ニ記入スヘシ

一七　度數計ノ試驗ヲ要スヘキモノハ事故調査表ヨリ必要事項ヲ度數計試驗要求書（第四號樣式）ニ轉記シ主事ヲ經テ送付簿ニヨリ之ヲ其ノ局試驗掛ニ送附スヘシ

一八　試驗掛ヨリ試驗成績ノ回答アリタルトキハ試驗ノ結果並ニ處理ノ顚末ヲ事故調査表相當欄ニ記入スヘシ

一九　保守掛ヨリ第一五項ニヨル障碍通知ニ對シ結果ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ニ準シ處理スヘシ

二〇　障碍ノ通知又ハ試驗ノ要求ニヨリ障碍ヲ修理セラレタル度數計ニ對シテハ其ノ後ノ指數ヲ臨時調査シ結果ノ良否ヲ確メ其ノ成績ヲ事故調査表相當欄ニ記入スヘシ

二一　度數計檢査ニヨリ發見シタル事故ハ一ケ月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ（第五號樣式）ニヨリ監査課ニ報告スヘシ

二二　監査課ニ於テハ前條報告ヲ取纏メテ之ヲ回覽ニ附スヘシ

第二章　座席度數計ニ對スル檢査

二三　座席度數計ハ一日ノ働作數ヲ調査シ前回ノ働作數ト比較スルモノトシ毎月二回以上之ヲ行フヘシ

二四　働作數カ前回ニ比シ二分ノ一以下ナルカ又ハ二倍以上ナル場合ニハ障碍ノ疑アルモノトシテ處理スヘシ

二五　座席度數計ノ働作ニ對スル檢査ニ關シテハ本章ニ定ムルモノヽ外總テ加入者度數計ニ對スル檢査ニ準スルモノトス

第三章　月末ニ於ケル加入者度數計指數調査

二六　毎月末加入者度數計檢査表ニヨリ一日平均五十回以上ノ通話アル加入者ヲ摘出シタル上其ノ加入者度數計ノ指數ヲ調査シ補助指數表ヲ作成シ備考欄ニ「通話數多シ」ト記入シ翌朝主事ヲ經テ料金課ニ送付スヘシ

第四章　料金徵收期末ニ於ケル加入者度數計指數調査

二七　料金徵收期末ニ於ケル指數調査ハ加入者ノ料金負擔ニ直接ノ影響アルモノナルヲ以テ最モ正確ニ重キヲ置キ沈着ニ之ヲ行ヒ殊ニ指數記入ニハ字體ノ明瞭ヲ期スヘシ

二八　指數調査ハ二名ヲ以テ一組トシ各組一千個宛ヲ分擔シ第三項及第四項ニ準シ加入者度數計指數表ニ記入スヘシ

二九　指數表ニ今期末指數ノ既ニ記入シアルモノハ現在ノ指數ト相違ナキヤヲ確メ相違ナキトキハ自己ニ於テ記入シタルモノト見做シテ處理シ若シ相違アルトキハ直ニ其ノ旨主事ニ申出ツヘシ

三〇　第二八項ノ調査ヲ終リタルトキハ自己ノ分擔シタル分ヲ他ノ組ノモノト互ニ取替ヘ指數ノ記入ニ誤ナキヤヲ更ニ再査スヘシ

三一　再査ノ場合ニハ指數表ニ記入シアル數字ノ字體ニ注意シ不明瞭ノモノアルトキハ相當補正ヲナスヘシ

三二　再査ヲ終リタルモノハ取纏メ置キ翌朝更ニ對査シ誤ナキトキハ指數ノ上部ニ赤色レ印ヲ付シ全部終了ノ上主事ヲ經テ料金課ニ送附スヘシ

加入者度數計檢查進行表

（第一號樣式）

番號 / 調查期	0	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								

度數計檢查表　（　　局）

（第二號樣式）

電話番號 / 調查期	0		1		2		3		4		5		6		7		8		9	
1		通話數		通話數		通話數		通話數		通話數		通話數		通話數		通話數		通話數		通話數
2																				
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				

度數計事故調査表

月　日通知

電話番號	前期未數	前期間通話度數	今期未數	今期間通話度數	試驗個所	試驗ノ結果顚末	再査成績	備考

（第二號樣式）

（第四號樣式）

度數計試驗要求書

大正　年　月　日

局試驗掛御中

市內交換課
分局

左記度數計働作ニ疑ハシキ點有之ニ付一應試驗ノ上結果回報相成度

電話番號	前期通話度數	今期通話度數	試驗個所	備考

（第五號樣式）

度數計檢檢成績報告（大正　年　月分）

大正　年　月　日

市內交換課
分局

一　各加入者度數計ニ對シ檢査ヲ行ヒタル回數　回

二　檢査ノ成績

試驗要求月日	電話番號	試驗ヲ要求シタル理由	試驗ノ結果並處理顚末	備考

◉加入者並度數計異動處理手續（當局所定）

第一章　番號簿訂正掛ノ處理

第一節　受付

一　電話試驗掛ヨリ度數計指數異動通知票（第一號樣式）ト共ニ左記工事起竣工報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ異動通知票ニ件名ヲ記入シ之ヲ主事ニ提出シタル上第二節又ハ第三節ニヨリ處理スヘシ

(一)　加入者他局ヨリ轉入シタルモノ
(二)　加入者開通シタルモノ
(三)　共同線加入ヲ單獨加入ニ變更シタルモノ
(四)　連接加入ヲ取消シタルモノ
(五)　共同線加入カ相手方ヲ失ヒタルモノ

二　電話試驗掛ヨリ左記工事起竣工報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ補助指數票（第二號樣式）ニ當該加入者ノ舊電話番號及件名ヲ記入シ起竣工報告書ト共ニ之ヲ主事ニ提出シタル上第二節、第三節又ハ第四節ニヨリ處理スヘシ但シ電話番號變更ノ塲合ハ電話試驗掛ヨリ送付ヲ受ケタル度數計指數異動通知票ヲモ添付提出スヘシ

(一)　加入者他局ヘ轉出シタルモノ

(二)　加入ヲ取消シタルモノ
(三)　加入ヨリ除名シタルモノ
(四)　電話番號ヲ變更シタルモノ
(五)　單獨加入ヲ共同線加入ニ變更シタルモノ
(六)　連接加入開通シタルモノ
(七)　相手方ナカリシ共同線加入カ相手方ヲ得タルモノ

三　電話試驗掛ヨリ左記工事起竣工報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第三節又ハ第五節ニヨリ自己限リ之ヲ處理スヘシ

(一)　共同線加入者カ通話ヲ休止シタルモノ
(二)　休止中ノ共同線加入者カ通話ヲ開始シタルモノ
(三)　機械ヲ一時撤去シタルモノ
(四)　撤去中ノ機械ヲ取付ケタルモノ

四　電話試驗掛ヨリ複式「ジヤツク」切替ニ伴フ度數計指數異動通知票ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ件名ヲ記入シタル上補助指數票ヲ作成シ兩者ヲ主事ニ提出スヘシ

第二節　單獨加入開通取消除名及轉入轉出

一　單獨加入開通又ハ轉入ノ場合ハ左記ノ通リ處理スヘシ

(一)　複式「ジヤック」ヨリ木栓ヲ撤去スルコト

(二)　事故番號表（第三號樣式）ノ空番記號ヲ抹消スルコト

(三)　事故度數計表（樣式ハ第三號ニ同シ）ノ空番記號ヲ抹消スルコト

(四)　「ジヤック」對照表ノ空番記號ヲ抹消スルコト

(五)　加入者配置表（第四號樣式）ニ電話番號及電話機數ヲ記入スルコト

二　無料電話開通又ハ轉入ノ場合ハ前項ニヨルノ外事故度數計表及加入者配置表ニ無料電話ノ記號ヲ記入スヘシ

三　單獨加入取消、除名又ハ轉出ノ場合ハ左記處理ヲナスヘシ

(一)　複式「ジヤック」ニ空番木栓ヲ挿入スルコト

(二)　事故番號表ニ空番記號ヲ記入スルコト

(三)　事故度數計表ハ空番記號ヲ記入スルコト

(四)　「ジヤック」對照表ニ空番記號ヲ記入スルコト

(五)　加入者配置表ヲ抹消スルコト

第三節　共同線加入及連接加入

一　共同線加入又ハ連接加入轉入ノ場合ハ第二節第一項第二號乃至第四號ノ外加入者配置表ニ電話番號及共同線又ハ連接ノ記號ヲ記入スルコト

二　共同線加入ヲ單獨加入ニ又ハ單獨加入ヲ共同線加入ニ變更ノ場合ハ新番號ニ對シテハ第二節第一項ニ準シ又舊番號ニ對シテハ同第三項ニ準シ處理スヘシ

三　共同線加入開通ノ場合ハ小番號ニ對シテハ前項ニヨリ又大番號ニ對シテハ本節第一項ニヨリ處理スヘシ但シ兩加入者トモ新ニ開通シタルモノナルトキハ兩番號ニ對シ前項ノ處理ヲナスヘシ

四　共同線加入カ相手方ヲ失ヒルタル場合ハ單獨加入ニ變更シタルモノト見做シ本節第二項ニ準シ處理スヘシ

五　相手方ナカリシ共同線加入カ相手方ヲ得タル場合ハ單獨加入ヨリ共同線加入ニ變更シタルモノト見做シ本節第二項ニ準シ處理スヘシ

六　共同線加入通話停止ノ場合ハ第二節第三項ニ準スルノ外尙ホ「マーキング」異動簿ニ記入シ夜勤部長ニ引繼クヘシ

七　休止中ノ共同線加入カ通話開始ノ場合ハ第二節第一項ニ準シ處理スヘシ

八　連接加入開通ノ場合ハ左記處理ヲナスヘシ

(一)　事故度數計表ニ連接ノ記號ヲ記入スルコト

(二)　加入者配置表中舊位置ノ分ヲ抹消シ新位置ニ電話番號及連接ノ記號ヲ記入スルコト

九　連接加入取消ノ場合ハ左記處理ヲナスヘシ

(一)　事故度數計表中連接ノ記號ヲ抹消スルコト

(二)　加入者配置表中舊位置ノ分ヲ抹消シ新位置ニ電話番號ヲ記入スルコト

第四節　電話番號變更

一　單獨加入ノ電話番號變更ノ場合ハ新番號ニ對シテハ第二節第一項ニヨリ又舊番號ニ對シテハ同第三項ニヨリ處理スヘシ

第五節　機械一時撤去

一　機械一時撤去ノ場合ハ左記處理ヲナスヘシ

(一)　複式「ジヤック」ニ木栓ヲ挿入スルコト

(二)　事故番號表ニ記號ヲ記入スルコト

(三)　「ジヤック」對照表ニ記號ヲ記入スルコト

二　前項機械取付ノ場合ハ左記處理ヲナスヘシ

(一)　複式「ジヤック」ヨリ木栓ヲ撤去スルコト

(二)　事故番號表ノ記號ヲ抹消スルコト

(三)　「ジヤック」對照表ノ記號ヲ抹消スルコト

第六節　事故番號

一　主事ヨリ事故番號處理票ニヨリ事故ノ通知ヲ受ケタルトキハ左記處理ヲナスヘシ

(一)　加入者不在ノ場合ハ應答及複式「ジヤック」ニ木栓ヲ挿入シタル上事故番號不在加入者記入簿ニ記入スルコト

(二)　複式「ジヤック」切替及番號違注意ノ場合ハ複式「ジヤック」ニ木栓ヲ挿入シタル上「ジヤック」對照表ニ記入スルコト

二　主事ヨリ事故番號處理票ニヨリ事故ノ止ミタル通知ヲ受ケタルトキハ左記處理ヲナスヘシ

(一)　加入者不在ノ場合ハ應答及複式「ジヤック」ヨリ木栓ヲ撤去シタル上事故番號表及「ジヤック」對照表ノ記號ヲ抹消シ不在加入者記入簿ニ相當記入スルコト

(二)　複式「ジヤック」切替及番號違注意ノ場合ハ複式「ジヤック」ヨリ木栓ヲ撤去シタル上「ジヤック」對照表ノ記號ヲ抹消スルコト

第二章　主事ノ處理

一　番號簿訂正掛ヨリ左記異動ノ書類ヲ受ケタルトキハ新收容位置ヲ決定シ加入者收容位置通知簿ニヨリ電話試驗掛ヘ通知スヘシ

(一)単獨加入開通又ハ轉入ノ場合ハ成ル可ク電話番號順ニ收容位置ヲ選定スルコト
(二)局内中繼「ジヤック」ヲ使用スヘキ無料電話開通ノ場合ハ無料電話擔當席ニ收容スルコト
(三)電話番號變更ノ場合ハ新番號ニ對シ第一號ニ準スルコト
(四)共同線加入ヲ單獨加入ニ變更ノ場合ハ前號ノ方針ニヨリ一般座席ニ收容スルコト
(五)單獨加入ヲ共同線加入ニ變更ノ場合ハ第一號ノ方針ニヨリ共同線擔當席ニ收容スルコト
(六)共同線加入カ相手方ヲ失ヒタル場合ハ一般座席ニ收容スルコト
(七)相手方ナカリシ共同線加入カ相手方ヲ得タル場合ハ第三號ニ準スルコト
(八)連接加入開通ノ場合ハ本加入ノ收容位置ヲ連接擔當席ニ變更スルコト
(九)連接加入取消ノ場合ハ本加入ノ收容位置ヲ第一號ノ方針ニヨリ一般座席ニ變更スルコト

二　番號簿訂正掛ヨリ補助指數票及工事起竣工報告書ノ提出ヲ受ケタルトキハ補助指數票ニ記入セル電話番號及件名ニ相違ナキヤヲ檢査シタル上工事起竣工報告書ヲ訂正掛ニ交付スヘシ

三　前項補助指數票ニハ加入者度數計ノ指數ヲ記入シ之ヲ通話票整理掛ニ交付シタル上加入者度數計番號札ノ上ニ赤色紙ヲ挿入スヘシ

四　番號簿訂正掛ヨリ指數異動通知票ノ提出ヲ受ケタルトキハ當該加入者度數計ニ挿入シアル赤色紙ヲ撤去シタル上指數異動通知票ヲ通知票整理掛ニ交付スヘシ

五　電話試驗掛ヨリ複式「ジヤック」切替ノ打合ヲ受ケタルトキハ代用スヘキ複式「ジヤック」番號ヲ指定シタル上切替木栓ヲ準備シ置クヘシ

六　複式「ジヤック」切替ノタメ番號簿訂正掛ヨリ度數計指數異動通知票及補助指數票ノ提出ヲ受ケタルトキハ事故番號處理票ニ相當記入ノ上切替木栓ト共ニ番號簿訂正掛ニ交付シ補助指數票ニハ從來使用セル加入者度數計ノ指數ヲ記入シ異動通知票ト共ニ通話票整理掛ニ交付スヘシ

七　前項ノ手續ヲ了シタルトキハ加入者度數計ニ對シ左記處理ヲナスヘシ

(一)從來使用セル度數計ニハ代用セラルヘキ度數計番號及橫線ヲ朱記セル番號札ヲ挿入スルコト
(二)代用セラルヘキ度數計ニハ正當電話番號ヲ記入セル番號札ヲ挿入スルコト

八　加入者不在又ハ番號違注意ノモノヲ受付ケタルトキ若クハ此等事故ノ止ミタルトキハ事故番號處理票ニ相當ノ記入ノ上之ヲ番號簿訂正掛ニ交付スヘシ

第三章　部長ノ處理

一　電話試驗掛ヨリ度數計回復通知書ト共ニ度數計指數異動通知票ヲ受ケタルトキハ異動通知票ニ件名ヲ記入シ之ヲ通話票整理掛ニ交付シ度數計ノ使用ヲ開始セシメタル上回復通知書ハ障碍通知書ニ附綴シ置クヘシ但シ異動通知票カ座席度數計ニ對スルモノナルトキハ之ヲ主事ニ提出スヘシ

(一)應答「ジヤック」

(二)　第一臺並ニ共同連接收容臺及其ノ兩隣臺ノ複式「ジャック」

二　各部長ハ毎日午前中ニ「ジャック」對照表ニ自己擔當區域內ノ「ジャック」ニ挿入シアル木栓ニ誤ナキヤヲ照合スヘシ

三　夜勤部長ハ毎日午後十二時ヲ期シ不在加入者記入簿ニヨリ停止期間ノ滿了セルモノナキヤヲ調査シ滿了セルモノアルトキハ「ジャック」ニ挿入シアル木栓ヲ撤去シ事故番號表及「ジャック」對照表ノ記號ヲ抹消シタル上不在加入者記入簿ニ相當記入ヲナスヘシ

五　夜勤部長ハ毎月末日「ジャック」ノ「マーキング」ヲ事故度數計表ト對照シ不良ノモノアルトキハ相當補正ヲナスヘシ

第四章　附則

一　事故番號表及ジャック對照表ニ記入スルニハ左ノ記號ヲ用フヘシ

空番	●
機械取外シ	○
加入者不在	◎
「ジャック」切替	(代用「ジャック」番號)
番號違注意	⑪

二　事故度數計表ニ記入スルニハ左ノ記號ヲ用ウヘシ

空番	●
共同	共
連接	連
局用電話	無
「ジャック」切替	(代用「ジャック」番號)

(第一號樣式)

指數異動通知票

第　局號

電話番號	試驗前ノ指數	試驗後ノ指數	加除スベキ度數	試驗者印	試驗係印	處理者印

(第二號樣式)

補助指數表

第　局號

月　日

電話番號	指數	記事	調査者	處理者

（第三號様式）

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
60	61	62	63	64	65	66	67	68	69
70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
90	91	92	93	94	95	96	97	98	99

（第四號様式）

局　　　　パネル　　　　局

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
5										
4										
3										
2										
1										
0										

回線數

電話機數

回線數

電話機數

◉電話番號決定ニ關シ交換取扱側トシテ必要トスル條件

（當局所定）

一　代表番號ニヨリ代表セラルヽ電話ハ左ノ順序ニ排列シ連續セル電話番號ヲ附スルコト

1　特別長距離加入ノモノ

2　普通長距離加入ノモノ

3　長距離加入ニアラサルモノ

二　代表番號ハ成ルヘク其ノ第一位ニ零ヲ有スルモノトスルコト

三　代表番號ニヨリ代表セラルヽ電話番號ハ左ノ範圍内ニテ連續セシムルコト

各零　番乃至十九番

各二十番乃至三十九番

各四十番乃至五十九番

各六十番乃至七十九番

各八十番乃至九十九番

但シ左ノモノハ之ヲ避クルコト

本局ハ各八十番乃至九十九番

分局ハ各零　番乃至十九番

四　代表番號ニヨリ代表セラルヽ一聯ノ番號ニハ如何ナル場合ト雖モ其ノ中間ニ空番ヲ存セシメサルコト

五　代表番號ニヨリ代表セラルヽ一聯ノ番號ト他ノ一聯ノ番號トハ隣接セシメサルコト

六　代表番號ニヨリ代表セラルヽ連續番號ハ同一百臺中ニテハ成ルヘク三聯以内ニ止ムルコト

七　代表番號ヲ使用セサルモノト雖モ同一加入者邸宅構内ニアル數個ノ電話ニ連續セル番號ヲ附スル場合ニモ成ルヘク前各號ニヨルコト

八　共同線加入開通又ハ單獨加入カ共同線加入ニ變更ノ場合ニハ其ノ電話番號ヲ成ルヘク左ノ範圍内ノモノトシ猶既設共同線加入者ノ電話番號ト連續セシムルコト

本　局ハ七五〇〇番乃至七六九九番

東及西分局ハ一二〇〇番乃至一二九九番

南　分　局ハ二九〇〇番乃至二九九九番

九　共同線加入カ單獨加入ニ變更ノ場合ニハ電話番號ヲ前號以外ノモノニ變更スルコト

一〇　着信無料電話ノ電話番號ハ左ノ通トシ當該番號ノ必要ナキ局ニ於テハ空番トナシ置キ決シテ之ヲ他ノ電話ニ使用セサルコト

○　番　工事用
六〇　番　電話試驗用
四〇〇番　監査課申告受付用
五〇〇番　市内案内臺用
六〇〇番　工事用
一〇〇〇番　市外案内臺用
五〇〇〇番　呼出電話臺用
四〇〇〇番　市内監督臺用
六〇〇〇番　工事用
七〇〇〇番　市外監督臺用
番　外　市内案内臺用

一一　新ニ空番トナリタル電話番號ハ已ムヲ得サル場合ノ外ハ其ノ後一ケ月ヲ經過スルニアラサレハ他ノ加入者ノ番號ニ充當セサルコト

第四類　市外交換

◉重要市外電話線障碍ノ場合直ニ代用スヘキ回線ヲ豫メ指定シ置クノ件

（大正十三年四月二十八日
名規三三〇六號）

右別表ノ通リ定メ五月六日ヨリ實施セラル、尤モ之カ運用ニ關シテハ機宜ノ措置ヲ必要トスルハ勿論ナルモ短時間ノ罹障ニ對シ其ノ都度措置スルトキハ代用手配中恢復ヲ見ルコト多カルヘク斯クテハ回線ノ利用上面白カラサル結果ヲ招來スヘキニ付可成障碍ノ原因ヲ探査シ容易ニ恢復ノ見込ナキ場合ニ於テ代用方措置スルモノトシ而モ原因探査ニ偏シ緩急輕重ヲ愆ルカ如キコトナキ樣常ニ回線ノ狀態ニ注意シ運用上遺憾ナキヲ期セラレタシ依命

追而當分ノ內本件措置ヲ爲シタルトキハ一ケ月分取纏メ別紙樣式ニ依リ報告相成度

（別　表）

重要市外電話回線障碍ノ場合代用回線豫定調書

一　兩地間大部分不通ノ際尙二回線ノ全通ヲ計ルモノ

不通區間	代用回線名及順序	條件	記事
東京大阪間	順序一代用回線名		
	(イ)名古屋以東ニテ障碍ノ場合		
	一　東京名古屋一番線	東名三、四番線ハ代用ノ爲重要ナル犧牲トスル必要ナキ場合ニ限ル尙障碍又ハ代用ノ爲メ	上記ノ外關係回線不通狀況ニ從テ左表ニ準ジ適當ニ措置スルコト
	二　同　三番線		

第四類　重要市外電話線障碍ノ場合直ニ代用スヘキ回線ヲ豫メ指定シ置クノ件

三一同　四番線

（ロ）名古屋以西ニテ障碍ノ場合

一　名古屋大阪八番線

二　同　四番線

（ハ）前記代用回線不通ノ場合

一　東京横濱一番線

横濱神戸線

（イ）京都以東ニ於テ障碍ノ場合

一　名古屋京都一番線

二　同　三番線

（ロ）京都以西ニ於テ障碍ノ場合

一　京都大阪一番線

二　同　三番線

三　同　一〇番線

（ハ）前記代用回線不通ノ場合

大阪津一番線

名古屋四日市四番線

一　東京大阪三番線

二　同　九番線

名古屋大阪間

全通回線カ東名間三、名阪間七回線以下トナラサル場合ニ限ル

横神線代用ノ際ハ東京横濱大阪三局線トシ横神間通話ハ大阪中繼トス

京都大阪間大部分及名古屋京都間並大阪津間全部全通シ居ル場合ニ限ル

但シ名京三ハ同一番ヲ代用セサル時ニ限ル

但シ大阪津一番線及名古屋四日市四番線ノ代用順位ハ最下位トス

東阪間ハ障碍又ハ代用ノ爲全通回線十回線以下トナラサル場合ニ限ル

	東阪間全通回線數					
	0	1	2	3	4	5
東通名回線	3					
	4	一				
	5	一	一			
間線全數	6	二	一	一		
	7	二	二	一	一	
	8	二	二	二	一	一

備考　表中ノ日本數字ハ代用回線數トス

上記ノ外關係回線不通ノ狀況ニ從ヒ左表ニ準シ適當ニ措置スルコト

	全通回線數	0	1	2	3	4	5
代用回線數		二	二	二	二	一	0

五回線以上全通ノ際ハ代用ノ要ナシ

上記ノ外關係回線不通ノ狀況ニ從ヒ左表ニ準シ適當ニ措置スルコト

東阪間全通回線數	16	15	14	13	12	11

東阪間十回線以下ト

東阪間五回線以上全通ノ際代用ノ要ナシ

又東名間三回線以下ノ際モ代用ノ要ナシ

東京名古屋間

二　兩地間全部不通ノ際一回線ノ全通ヲ計ルモノ（以下ハ代用區間大部分全通シ居ル場合ヲ條件トス）

順序	不通區間	代用回線名及順序
	東京　京都	
（イ）	名古屋以東ニ於テ障碍ノ場合	
一	東京名古屋一番線	
二	同　二番線	
（ロ）	名古屋以西ニ於テ障碍ノ場合	
一	名古屋京都一番線	
	横濱　靜岡線	
	名古屋神戸線	
	橫濱　神戸	
	靜岡　名古屋	
	名古屋　京都	
	濱松　名古屋	

東通名回線全數						
	0	1	2	3	4	5
	二	二	二	二	一	
	二	二	二	一		
	二	二	一			
	二	一				
	一					

ナリタル際及東名間四回線以上全通シ居ル際ハ代用ノ要ナシ

備考　表中ノ日本數字ハ代用回線數トス

條件記事

靜岡名古屋間代用線ナシ

名古屋神戸線代用ノ際ハ橫濱名古屋神戸三局線トシ大阪ヘハ東京中繼トス

靜岡豊橋線代用ノ際ハ靜岡豊橋名古屋三局線トスルコト

岐阜京都線代用ノ際ハ名古屋岐阜京都三局線トスルコト

靜岡豊橋線

名古屋豊橋四番線

名古屋岐阜六番線

岐阜京都線

濱松豊橋三番線

名古屋豊橋四番線

東名二番線代用ノ際ハ橫濱名古屋間ハ東京中繼トス

橫濱ヨリ神戸ヘハ大阪橫濱間活用シ得レハ大阪中繼然ラサレハ名古屋中繼

橫靜線代用ノ際ハ同間通話ハ沼津中繼

名古屋	神戸	(イ)大阪以東ニ於テ障碍ノ場合
		一　名古屋大阪四番線
		二　同　八番線
		(ロ)大阪以西ニ於テ障碍ノ場合
		一　大阪　神戸　二番線
		二　同　三番線
大阪	津	(イ)大阪四日市間ニ於テ障碍ノ場合
		一　大阪四日市線
		二　名古屋大阪二番線
		三　同　七番線
		(ロ)四日市津間ニ於テ障碍ノ場合
大阪	四日市	四日市　津　一番線
		名古屋大阪四番線
東京	上田	東京　小諸線
		上田　小諸　一番線
東京	長野	無
東京	長岡	一　長野　長岡線
		二　東京　新潟線
長野	長岡	長岡　直江津線
東京	岡谷	東京　甲府　二番線
		甲府　岡谷線

大阪四日市線代用ノ際ハ大阪四日市津三局線トスルコト	
名阪線代用ハ之ガ爲名阪重信三番四日市津二番線代用ハ之ガ爲同間重信モ犧牲トスル必要ナキ場合ニ限ルトス	
東京小諸線代用ノ際ハ東京小諸上田三局一回線トスルコト	
長野長岡線代用ハ東京長岡一番線ニ接續東京長野長岡三局又東京新潟線代用ハ單ニ長岡ヲ接續シ三局各一回線トス	
甲府岡谷線代用ノ際ハ東京甲府岡谷三局線トスルコト	

東京長岡一番線利用ノコト但シ之モ不通ノ際ハ代用線ナシ

長野直江津間代用線ナシ

東京	松本	東京　甲府　二番線 甲府　上諏訪線 松本　上諏訪線
大阪	金澤	大阪京都　一〇番線 京都　福井線 福井　金澤　二番線
名古屋	金澤	名古屋　福井線 福井　金澤　二番線
名古屋	福井	名古屋　中津　二番線
名古屋	松本	

三　同時ニ二區間ニ障碍アリタル場合代用回線ノ代用順序

順序	第一區間	第二區間	事記
代用回線名			
東京名古屋一番線	東京　大阪間	東京　京都間	大阪、福井、金澤三局線ヲ作ルコト
名古屋京都一番線	名古屋　大阪間	同	名古屋福井線代用ノ際ハ名古屋福井金澤ノ三局線トスルコト
東京大阪三、九番線	東京　名古屋間	東京　神戸間	單ニ福井線ヲ接續シ三局線トスルコト
名古屋大阪四、八番線	名古屋　神戸間	名古屋　神戸間	名古屋松本二局線トシ名中一番線ニ於テ名古屋多治見間ノ通話ヲ爲サザルコト
大阪神戸二、三番線	東京　神戸間	同	甲府上諏訪線及松本上諏訪線代用ノ時ハ同間通話ハ岡谷中繼トスルコト
名古屋豊橋四番線	濱松　名古屋間	靜岡　名古屋間	京都福井間通話ハ敦賀中繼トスルコト
京都大阪一〇番線	大阪　金澤間	名古屋　大阪間	名福線代用ノ時ハ名古屋敦賀間通話ハ福井中繼トスルコト
大阪津一番線	大阪　四日市間	同	中津松本間代用線ナシ
東京甲府二番線	東京　松本間	東京、岡谷間	

備考

第四類　重要市外電話線障碍ノ場合直ニ代用スベキ回線ヲ豫メ指定シ置クノ件

一　重信電話ニ使用サレタル回線ヲ代用セントスルトキハ既ニ其ノ重信線カ不良ナル塲合カ或ハ代用スルモ重信線カ不良トナラサル塲合ニ代用スルコト但シ必要ニヨリテハ此ノ限ニアラス

二　本表代用回線以外ノモノト雖モ事情許シ得ル塲合ハ本表ニテ必要トスル全通回線ヲ得ル爲ニ關係局打合セノ上可成其ノ要求ニ應スルコト

重要市外電話回線障碍ノ爲他回線代用報告（樣式）

年　月　日　　何々局

規　書　課　宛

月日	障碍回線名	障碍時間	代用回線名	代用時間	備考
		自時分 至時分		自時分 至時分	

◉市外專用電話線措置心得

（當局所定）

市外專用電話線ノ監視並ニ障碍ノ塲合ニ於ケル措置方法ハ總テ本心得ニ依ルノデアリマス

一　市外專用電話線ノ設備

（一）市外專用電話線トハ局ノ交換機ニ收容セズ直接專用者ノ宅內ヘ引込ミ其ノ所ニ備ヘラレタ市外專用ノ電話機ニ接續サレ局ノ交換手ニ關係ナク通話スルコトノ出來ル電話線デアリマス

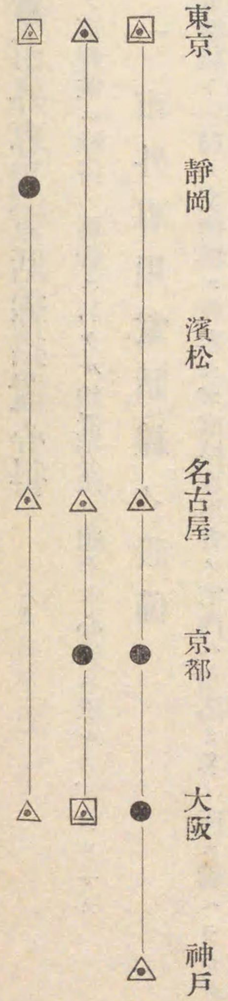
（二）現在實施サレテ居ル市外專用電話線ハ次ノ五回線デアリマス

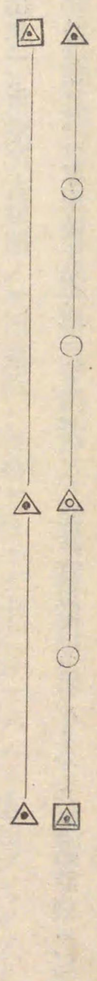
回線名	使用者名	電話機設置塲所
電報通信社專用線	株式會社日本電報通信社	東京本社 名古屋支局 京都支局 大阪支局 神戸支局
大阪每日新聞社專用線	株式會社大阪每日新聞社	大阪本社 京都支局 名古屋支局 東京支局
時事新報社專用線	株式會社時事新報社	東京本社 靜岡支局 名古屋支局 大阪出張所

朝日新聞社專用線	株式會社 朝日新聞社	大阪朝日新聞社 京都通信部 名古屋通信部 濱松通信部 靜岡通信部 東京朝日新聞社
中外商報新聞社專用線	株式會社 中外商業新聞社	東京本社 名古屋支局 大阪支局

二　電話機接續並監督臺引込

(一)　市外專用電話線ハ試驗手配ヤ監視ノ必要上東京大阪間ノ回線ハ東京、大阪、名古屋ノ各中央電話局東京神戸間ノ回線ハ東京、名古屋、神戸ノ各中央電話局ノ監督臺ニ引込ミ其ノ他ノ地デハ局內ニ引込マズ直接專用者ノ宅內ヘ引込ンデアリマス之ヲ圖ニテ表セバ次ノ通リデアリマス





備考
●ハ專用電話機　△ハ監督臺引込　□ハ本社
○ハ平素ハ接續セズ專用者ヨリ申出ガアルトキダケ電話機ヲ接續シマス

三　一般監視

(一)　市外專用電話線ノ使用方ヤ監督ニ就テハ東京ノ遞信局ガ主管局ニナッテ居マスカラ大切ノ事柄例ヘバ障碍ノ塲合ノ代用通話ノ如キハ東京局デ定メルコトニナッテ居マス

(二)　市外專用電話線デ行ハレテ居ル通話ノ內容等ハ東京局ガ時々監督臺デ聽話シテ新聞ノ記事以外ノ通話ヲスルコトガ無イカ監視スルコトニナッテ居マス

四　障碍措置

(一)　市外專用電話線ガ障碍ニナルト專用者カラ其ノ土地ノ六十番ヘ申出マス

(二)　名古屋本局六十番デ右ノ申出ヲ受ケルト直ニ試驗シテ修理ノ手配ヲシマス

(三)　六十番デ試驗シテ障碍ト決定スルト其ノ結果ヲ市外監督臺ヘ知ラセテ來マス尙ホ六十番デハ關係ノアル土地ノ六十番ヘモ知ラセマス

(四)　監督臺デ六十番ヨリ市外專用電話線ノ障碍通知ヲ受タトキハ前ノ圖ノ中●印ノアル土地ノ局ト名古

屋ノ專用者ヘ直ニ通知スルノデス又各局デハ障碍ノ狀況ヲ其ノ土地ノ專用者ニ通知シマス

(五) 六十番カラ障碍ノ恢復通知ヲ受ケタトキモ(四ト同樣ニ關係局ト專用者ニ通知スルノデス

(六) 關係局カラ障碍又ハ恢復ノ通知ヲ受ケタトキハ其ノ旨專用者ニ通知スルノデス

(七) 市外專用電話線ガ障碍ニ罹ツテ居ル間ハ專用者ガ其ノ回線ヲ分割活用シテ居ルカ否カヲ時々聽話監視スルノデス

(八) 專用者カラ六十番ヘ障碍線ノ分割活用方ノ申出ガアレバ六十番デハ相當手配シテ活用ガ始マレバ其ノ時刻ヤ區間ヲ監督臺ヘ通知シテ來マス

(九) 分割活用スル旨六十番ヨリ通知ガアツタラ聽話ヲ止メテ宜シイノデス

(一〇) 聽話監視中分割活用シテ居ルコトヲ知ツタトキ又ハ六十番ヨリ(八)ノ通知ヲ受ケタトキハ其ノ時刻ト區間トヲ代用通話ヲ取扱フ局(東京、大阪)ヘ通知スルノデス

(二) 代用通話トハ市外專用電話線ガ障碍ノ爲メ一時間以上引續キ不通デアツテ分割活用ヲシナイ場合ニ限ツテ局ノ市外線デ取扱フ通話ヲ謂フノデス代用通話ハ當分ノ內中外商業新聞社ハ東京名古屋間(東京ヲ發信局トス)其ノ他ハ東京大阪間ニ限ラレテ居マスカラ俄ニ專用者カラ申出ガアツテモ直ニ變更スルコトハ出來マセン

(三) 代用通話ノ通話時數ハ專用線ノ不通一時間毎ニ五通話時以內ニ限ルノデス通話時刻ハ局デ指定シマス然シ代用通話ハ關係局間ノ市外線ガ總數ノ三分ノ二以上使用出來ルトキニ限リマス

(三) 中外商業新聞社ノ東京名古屋間ノ代用通話ハ每時九分ヨリ十二分マデノ一通話ヅツデアリマシテ着信豫約通話ニ準ジテ取扱ヒ同社加入電話ヘ接續スルノデアリマス

(一四) 代用通話ガ完了シナイ場合デモ市外專用電話線ノ障碍ガ恢復スルカ又ハ分割活用シテ居ルコトヲ知ツタトキハ打切リ良イ時數デ打切リ其ノ後ハ代用通話ノ取扱ヲ停止シマス

(一五) 障碍恢復又ハ分割使用ノ模樣ハ別ニ備付ノ市外專用電話線障碍記入簿ニ夫々記錄シ置キ遞信局ヘ報告ノ資料ニスルノデス

◉市外通話疏通競技採點標準

（當局所定）

市外線ニ於ケル通話ノ疏通數ハ通話時間ト相手局トノ打合等ノタメニ空費スル時間トニヨリ左右セラルルコト言ヲ俟タス

今實際ノ通話時間ヲ調査スルニ左ノ如シ

東京、大阪、京都ヘノ一通話時平均……二分四十五秒

岐阜、濱松、飯田、豐橋ヘノ一通話時平均……二分四十秒

多治見、蟹江、下一色、新川町ヘノ一通話時平均……二分十四秒

而シテ疏通狀況調査ノ必要切ナルハ前記第一、第二ニ類スル土地ヘノ市外線ナルニヨリ第三ニ屬スヘキモノハ當分調査セサルコトトス

尙採點方法ノ決定ニ就テハ便宜上第二ニ屬スルモノモ通話時間ヲ二分四十五秒ト看做シテ計算ス

次ニ取扱ノタメニ市外線ヲ空費スル時間ハ其ノ回線ノ信號方式ト發信中繼ノ別ト座席ノ收容回線數トニヨリ伸縮アルヘキモノナルニヨリ先ツ信號方式別ニ研究スルコトトス

（一）電信信號ニヨル發信通話ニ對スル點數

市外線二回線收容ノ座席ニテ電信信號ニヨリ發信通話ヲ接續スルタメニ要スル市外線空費時間ハ通常二通話時當リ五十六秒ニシテ一通話時當リ通話時間ハ既記ノ通リ二分四十五秒ナルニヨリ一時間中市外線カ事故ナクシテ順調ニ使用セラルルトキハ一六、三通話時取扱ヒタルモノニハ通話時數ニヨル得點トシテ滿點ヲ與フヘキモノナリ

次ニ通話度數ト通話時數トノ割合ヲ見ルニ一度ハ一、三三通話時ニ又一通話時ハ〇、七五度ニ相當スヘキニヨリ一時間ニ一二、二度ノ取扱ヲナシタルモノ故ニ前記一六、三通話時ハ一二、二度ニ相當スヘテ可ナリ即チ一時間中ニ通話度數トシテハ一二、二度通話ニハ通話度數ニヨル得點トシテ滿點ヲ與ヘテ時數トシテハ一六、三通話時ノ取扱ヲナシタルモノニハ百點ヲ與フヘキモノナルモ此ノ計算ハ普通ノ狀態ニ於ケル所要時分ヲ基本トセルモノニシテ理想トシテハ之ヲ以テ滿足スヘキモノニアラス猶一層成績ヲ昂上セシムル必要アルニヨリ前記算出ノ結果ニ二割ヲ附加シ度數トシテハ一四、六度時數トシテハ一九、六度ノ取扱ヲナシタルモノニ百點ヲ與フルコトトス

而シテ此ノ總百點中幾何ヲ通話度數ニ對シテ與フヘキカヲ考フルニ一通話時當リノ通話時間ハ前記ノ通リ二分四十五秒ニシテ又一度當リノ取扱ニ要スル市外線損失時間ハ一分十五秒ナルニヨリ一通話時ノ通話時間ハ二度ノ取扱ニ要スル市外線損失時間ニ稍近キヲ知リ得ラル故ニ一通話時ニ對スル點數ト一度ノ取扱ニ對スル點數トハ二ト一トノ比ニ近ク定ムルヲ適當トスヘシ此等ノ關係ヨリ兩者ノ點數ハ左ノ如クスルヲ至當トスヘシ

一度當リ　一、九點

一通話時當リ　三、七點

以上ハ一座席二回線擔當ノ場合ニ於ケル計算ナルカ故ニ三回線以上擔當スル場合ニハ市外線能率低下ヨリ來ル影響ノタメニ相當點數ヲ補正スルコト必要ナリ市外線能率低下ノ程度ハ往年當局ニ於テ調査セルコトアルニヨリ當時ノ調査ニ基クコトトセハ三回線以上擔當スル場合ニハ左ノ如ク採點スルヲ可トスヘシ

一座席ノ收容回線數	市外線能率	一時間ニ取扱ヒ得ル數		得點	
		度數	時數	一度當リ	一通話時當リ數
二回線	一〇〇、〇	一四、六	一九、六	一、九	三、七
三回線	八八、六	一二、九	一七、三	二、二	四、二
四回線	七二、七	一〇、六	一四、二	二、六	五、一

(二)「リングダウン」式ニヨル發信通話ニ對スル點數

「リングダウン」式ニヨル場合ヲ考フルニ一通話時當リノ通話時間ハ無論電信信號ノ場合ト同樣ニ二分四十五秒ニシテ一通話時當リノ市外線空費時間ハ一分五十四秒ナルニヨリ市外線カ一時間中此ノ割合ニヨリ利用セラルルモノトスレハ一二、九通話時ヲ取扱ヒ得ルニヨリ一二、九通話時ヲ以テ通話時數ニ對スル得點ヲ滿點トシテ可ナリ

又一二、九通話時ハ度數トシテハ九、七度ナルニヨリ一時間中ニ九、七度ノ取扱ヲナシタルモノハ通話度數ニ對スル得點ヲ滿點トスヘキナリ

而シテ「リングダウン」式ノ場合ニハ一通話時當リ通話時間ト一度ノ取扱ノタメニ生スル市外線損失時間トハ約四ト三ノ比ヲナセリ故ニ此ノ割合ニ近ク度數ト時數ノ得點ヲ定ムレハ左ノ如シ

	三、〇點
一度當リ	
一通話時當リ	四、二點

次ニ三回線以上擔當ノ場合ニ於ケル市外線能率低下ヨリ來ル點數ノ補正ハ左表ノ如シ

一座席ノ收容回線數	市外線能率	一時間ニ取扱ヒ得ル數		得點	
		度數	時數	一度當リ	一通話時當リ數
二回線	一〇〇、〇	一一、六	一五、五	三、〇	四、二
三回線	九三、八	一〇、九	一四、五	三、三	四、四
四回線	八二、六	九、六	一二、八	三、七	五、〇
五回線	六一、五	七、一	九、五	五、一	六、七

(三)自席ニテ接續スル中繼通話ニ對スル點數

中繼通話一度ノ取扱ニ要スル回線空費時間ト發信通話ニ要スル空費時間トノ比ハ左ノ如シ

	電信信號	リングダウン式
發信	一、〇	一、〇
中繼	一、八	二、〇

故ニ中繼通話一度ノ取扱ニ對スル點數ハ發信ニ對スル點數ノ　一、八倍又ハ　二、〇倍トスルヲ相當トス
又時數ニ對スル點數ハ發信局ノ取扱方如何ニヨリ左右セラルルモノニシテ精確ニハ定メ難キモ便宜ノ
タメ發信ノ場合ニ準シ一通話時當リヲ五點トセハ中繼通話ニ對スル點數ハ左表ノ如クナルヘシ

一座席ノ收容回線數	電信號一度當リ	電信號一通話時當リ	リングダウン式一度當リ	リングダウン式一通話時當リ
二回線	三、四	五、〇	六、〇	五、〇
三回線	三、八	五、〇	六、六	五、〇
四回線	四、七	五、〇	七、四	五、〇
五回線			一〇、二	五、〇

然ルニ中繼通話ノ通話時數ハ平素ハ交換證ニ記入セサルニヨリ實數ヲ知リ難キモ通話時數カ度數ノ
一、三三倍ニ相當スルコトハ發信ノ場合ト同樣ナルニヨリ前記通話時數ニ對スル得點ニ一、三三ヲ乘
シタルモノト度數ニ對スル點數トノ和ヲ以テ中繼通話一度ノ總點數トスルハ不當ニアラサルヘシ即
チ其ノ結果ハ左ノ如シ

收容回線數	電信信號	リングダウン式
二回線	一〇、一	一一、〇
三回線	一〇、五	一一、六
四回線	一一、四	一二、四

五回線　一五、二

（四）他席ニテ接續セラルル出中繼通話ニ對スル點數

疏通狀況ヲ調査スル市外線ヲ使用シテ他席ニテ接續セラルル中繼通話ノタメニ市外線ノ能率カ如何ニ
變化スルヤハ一ニ接續席ニ於ケル取扱方ニヨルモノニシテ擔當座席交換手ノ技倆若クハ活動ニハ何等
影響ナキモノナルニヨリ他席ニテ取扱ハレタル中繼通話ニ對シテハ市外線カ之カタメニ幾分間使用セ
ラレタルカヲ調査シ其ノ時間ニ對シ得點ヲ與フルヲ至當トス而シテ此ノ種ノ通話ノタメニハ通話開始
マテニ平均四分四十三秒ヲ通話ノタメニ三分二十八秒ヲ又通話終了後一分十九秒市外線ヲ使用セラレ
總計ニテ九分三十秒間ハ擔當者ニ於テ之ヲ利用スルコト能ハサルコトナル然ルニ擔當者トシテハ滿
點ヲ得ルニハ此ノ間ニ一五、八點ヲ獲得セサルヘカラサルニヨリ他席ニテ接續セラルル出中繼通話ニ
對シテハ一度當リ一五、八點トスルヲ可トスヘシ

（五）延滯其ノ他ノ事故ニ對スル減點數

中繼通話接續延滯話中後廻シトナリタルモノノ接續延滯及交換證作成上ノ事故ニ對スル各減點數ハ理
論的ニ之ヲ定ムルコト能ハサルモノナルニヨリ其ノ程度ノ輕重ニヨリ適當ニ斟酌スルノ外ナシ故ニ事

中繼話接續延延滯			話中後廻接續延滯				交換證事故
十分以上	卅分以上	一時間以上	二通	三通	四通	五通以上	一件ニ付
二	五	一五	一	三	五	一〇	一

以上ヲ總括スレハ採點方法ハ左表ノ如クナル

通信方式	一座席收容回線數	發信 一度ニ對シ	發信 一通話時ニ對シ	自席接續中繼一度ニ對シ	他席接續中繼一度ニ對シ
得點 電信信號	二回線	一、九	三、七	一〇、一	一五、八
	三回線	二、一	四、二	一〇、五	一五、八
	四回線	二、六	五、一	一一、四	一五、八
得點 普通信號	二回線	三、〇	四、二	一一、〇	一五、八
	三回線	三、三	四、四	一一、六	一五、八
	四回線	三、七	五、〇	一二、四	一五、八
	五回線	五、一	六、七	一五、二	一五、八

減點	中繼通話接續延滯 十分以上	三十分以上	一時間以上	話中後廻接續延滯 二通	三通	四通	五通以上	交換證事故一件ニ付
	二	五	一五	一	三	五	一〇	一

◎豫約新聞及豫約取引所電話ニ關スル件

（大正十三年五月二十四日名監話第一七八四七號）

近來豫約新聞並豫約取引所電話通話ハ一般通話ト共ニ漸次增加スル傾向アリ一面市外電話回線ハ豫算ノ關係上普遍的ニ之ヲ增設スルコト困難ナル狀況ニアルヲ以テ通話時間ノ打切ハ分秒ノ差ト雖嚴重取締ヲナシ回線ヲ有効ニ利用スヘキ義ニ候處動モスレハ平素ノ情實ニ絡マレ稀ニハ多少ノ手加減ヲナシ來レル關係上遂ニ自己ノ必要ニ應シテ之ヲ强フルノ慣習ヲ馴致セル嫌アリ豫約者ハ此ノ間ノ延伸時間ヲ利センカ爲殊更ニ料金納付責任者ヲ異動シ發信局ノ變更ヲ屆出テタル事例モアリ回線利用上洵ニ遺憾ノ次第ニ付前顯ノ趣旨ヲ體得シ各局互ニ情實ハ之ヲ捨テ此ノ弊風ヲ掃蕩シ以テ取扱ノ敏活ト確實ヲ企圖セラレ度又豫約通話取扱關係局ニ於テ調査ノ結果ニ依レハ豫約者中規定外ノ通話ヲナシ之ヲ他人ニ通報シテ報酬ヲ受ケツツアルモノモ有之甚タ不都合ノ次第ニ付自今之カ監視ヲ勵行シ苟モ是等事實ヲ發見シタルトキハ事實ヲ詳報越相成度次ニ各局ニ於テ豫約通話申請書等ヲ受ケタルトキハ豫約新聞電話取扱規程第一條及大正三年十月十六日通業第四二一號通信局長通牒ニ依ル各項調査ノ上其ノ必要事項ヲ別ニ記錄シ置キ自局取扱上支障ノ有無等ニ關シ意見ヲ附セラルヘキ筈ナルニ其ノ調査並具申方不充分ノ爲照複ヲ重ヌルモノ尠カラス當局處理上ハ勿論自然累ヲ申請者ニ及ホス義ニ付自今左記各項ヲモ了得ノ上取扱上些ノ遺漏ナカラシメラレ度

追テ豫約通話ニ關スル申請書受付ノ際其ノ通話區間カ當局管內ノ塲合ハ關係局ヘ廻付シ其ノ廻付ヲ受ケタル局ニ於テハ更ニ意見ヲ附シ當課ヘ移送シ來リタル處事務簡捷ト處理ノ迅速ヲ企圖スル爲自今受付局

ニ於テ意見ヲ附シタルトキハ關係局ニ廻付セス直ニ當課ヘ廻送相成度

記

一　新聞記事ノ一般的ナラサルモノ（例之各種相場新聞ノ如キ類）ニ對シテハ認可セラレサルコト

二　豫約取引所通話ハ米穀ト株式ノ如ク別個ノモノニ關シ其ノ種別相當ノ豫約ヲ申請スル場合ヲ除ク外同一區間ニ於テ二件以上認可セラレサルコト

三　申請書中發信所欄ニ單ニ所在地名又ハ發信所名ノミ記載アル向多キモ右ハ發信所名及其ノ所在地名ヲ併記セシムルコト

四　申請ハ新聞社又ハ新聞通信社ノ持主タルヲ要スルニ何等表示ナキタメ審査上疑惑ヲ生スルコトアリ必ス持主ノ名ヲ以テセシムルコト若シ持主カ法人ナルトキハ其ノ位置名稱ノ外其ノ代表者ヲシテ住所氏名ヲ記載セシムルコト

五　豫約通話ニ使用スヘキ電話カ申請者以外ノモノノ名義ナルトキハ認可セラレサルコト

六　同一回線ニ於ケル各種豫約通話ハ可成連續シテ之ヲ取扱フコトトシ間隔ヲ置ク場合ニ於テハ三分間以上ノ間隔ヲ置カシムルコト

七　通話時間ノ起點ハ零分又ハ三除シ得ル時分トスルコト

八　關係局間ニ於ケル回線使用上豫約通話ヲ認可セラルル範圍ハ大體左ノ標準ニ依ルモノナルコト

イ　一回線ノ區間ノ取扱數ヲ七通話時以内トスルコト

ロ　二回線又ハ三回線ノ區間ニ於テハ豫約通話取扱ニ充ツヘキ回線ハ一回線ニ限リ之ニ充ツヘキコト

ハ　四回線以上ノ區間ニ於テハ右ノ標準ニ準シ處理スルコト但シ二回線以上ヲ使用シ得ル場合ニ於テモ可成一回線ニ纏ムヘキコト

九　二中繼ノ區間ニ於テハ豫約通話ヲ認可セラレサルコト

一〇　双信線ノ如キ通話不良ノ回線ニ依ルヘキ豫約通話申請ナルトキハ申請者ニ對シ豫メ諒解セシメ置クコト

一一　豫約通話專用電話機ノ設置ニ關シテハ規則第七條規定ノ次第アルモ左ノ標準ニ基キ通話時間カ重複スルカ數區域ノ分連續スルカ或ハ通話カ長距離區域又ハ特別長距離區域ノモノニシテ取扱上專用電話機ヲ必要ト認メタル場合ニシテ既達豫算ノ範圍内ニ於テ差繰リ施工シ得ルモノニ限リ之ヲ設置セラルルモノナルコト

機數	一日豫約通話時數	豫約數
一	（新聞通話 一〇通話時以上 取引所通話 一五通話時以上）	二以上
二	三〇通話時以上	五以上
三	六〇通話時以上	一〇以上

一二　豫約新聞電話取扱規程第四條第一項ニ依ル豫約通話取扱開始及變更期日實施報告ハ當局宛報告スヘキコト

◉市外通話申込制限手續

（當局所定）

第一章　制限ノ標準竝ニ對話地

一　同一請求者カラ同一對話者ヘノ發信通話ハ一通ニ限リ受付ケ先ノ申込通話ガ完了スルマデハ受付ヲ斷ハルノデアリマス然シ通話種別ガ異ルモノハ各一通ヅヽ受付ケルコトガ出來マス

二　加入者ノ電話番號ガ異ツテ居テモ加入名義ト機械設置場所ガ同一ノモノハ同ジ加入者ト見ルノデアリマス

三　制限ヲナス對話地ハ其ノ都度別ニ定メマス

第二章　檢査竝ニ處理

一　配布掛ハ記錄臺デ受付ケタ交換證ヲ順序正シク集メテ檢査掛ヘ配付スルノデアリマス

二　一名ノ檢査掛ハ交換證ヲ對話地別ニ區分シテ夫々受持ノ檢査掛ヘ交付シ制限ノ必要ナキ交換證ハ直ニ市外臺ヘ配希サセルノデアリマス

三　制限スベキ對話地ヘノ交換證ハ受付ノ順序ニ重ネ置キ別ニ備付ケテアル代表番號簿デ請求者ノ番號ヲ調査シ代表番號簿ニ記入シテナイ番號ナレバ其ノ儘發信通話檢査表ニ兩加入者番號、通話種別、受付時刻ヲ記入スルノデアリマス

四　前項ノ場合代表番號ニ記入シテアル番號ナレバ交換證ノ裏面ニ代表番號ヲ記入シ檢査表ヘハ代表番號ヲ記入スルノデアリマス

五　檢査表ニ記入スルトキニハ一應先ニ記入シテアル番號ヲ調ベ若シ請求者番號モ對話者番號モ同一デ未ダ通話前ノモノガアレバ交換證右側欄外ノ上部ニ△印ト先ノ通話ノ受付時刻ヲ記入シテ制限スベキ通話デアルコトヲ明カニスルノデアリマス

六　一名ノ檢査掛ハ檢査濟ノ交換證ノ中△印ノアルモノヽ請求者ヲ呼出シテ制限ノ主旨ヲ告ゲテ申込ヲ取消ス旨通知スルノデアリマス

七　一名ノ檢査掛ハ二十分乃至三十分毎ニ市外臺ニ到リ通話濟ノ發信交換證ヲ調査シテ檢査表ニ記入シテアル番號ヲ抹消スルノデアリマス

◉市外交換用帳簿類訂正心得

（當局所定）

第一章　長距離加入者及無料電話ノ異動

一　加入課ヨリ加入者異動通知書又ハ加入ニ關スル合議書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ本章ニヨリ帳簿訂正ノ手續ヲナスヘシ

二　異動通知書又ハ合議ノ書類中左ニ該當スルモノアルトキハ長距離加入開廢簿（第一號樣式）ニ開廢又ハ變更月日、電話番號、普通長距離特別長距離ノ別及受付月日ヲ記入シ受付者認印シタル上通知書又ハ合議書類ニ認印ノ上送付簿ニヨリ市内交換課ニ送付スヘシ

普通長距離開始	
同	廢止
特別長距離開始	
特別長距離廢止	
普通長距離ヲ特別長距離ニ變更	
特別長距離ヲ普通長距離ニ變更	
電話開通（普通長距離又ハ特別長距離ニ限ル）	
加入取消（同）	

三　異動通知書又ハ合議書類中左ニ該當スルモノアルトキハ長距離加入異動簿（第二號樣式）ニ舊電話番號、新電話番號、異動種別及受付月日ヲ記入シ受付者認印シタル上通知書又ハ合議書類ニ認印ノ上送付簿ニヨリ市内交換課ニ送付スヘシ

名義變更及移轉改番（普通長距離又ハ特別長距離ニ限ル）

宅外移轉改番　（同

共同線改番　（同

四　異動通知書又ハ合議書類中前ニ項ニ該當スルモノナキトキハ通知書又ハ合議書類ニ認印ノ上送付簿ニヨリ市内交換課ニ送付スヘシ

五　左ノ異動ニ對シテハ開始又ハ變更月日ノ前日中ニ市外案内臺、檢査臺、及市外臺備付ノ長距離番號簿相當欄ニ●（普通長距離ノ記號）、×（特別長距離ノ記號）ヲ記入又ハ訂正シタル上開廢簿訂正者欄ニ認印スヘシ

普通長距離開始

特別長距離開始

普通長距離ヲ特別長距離ニ變更

普通長距離又ハ特別長距離電話開通

六　左ノ異動ニ對シテハ廢止又ハ變更月日ノ翌朝長距離番號簿相當欄ニ記入シアル記號ヲ抹消又ハ訂正シタル上開廢簿訂正者欄ニ認印スヘシ

普通長距離廢止

特別長距離ヲ普通長距離ニ變更

普通長距離又ハ特別長距離電話加入取消

第三項ノ異動ニ對シテハ受付ノ當日長距離番號簿中新番號ニ相當スル欄ヘ普通長距離又ハ特別長距離ノ記號ヲ記入シ異動簿開始處理者欄ヘ認印スヘシ

八　市内交換課ニ於テ本局電話試驗掛ヨリ工事竣工報告及之ニ對スル送付簿ヲ受ケタルトキハ相當處理ノ上市外交換課ニ回送スヘシ

九　各分局ヨリ工事報告通知簿ヲ送付セラレタルトキハ先ツ市内交換課ニ於テ處理ノ上市外交換課ニ回送スヘシ

一〇　市外交換課ニ於テ前二項ニヨリ工事竣成ノ通知ヲ受ケタルトキハ異動簿ニ竣工月日ヲ記入シ通知簿ニ認印ノ上直接發行元ヘ返付スヘシ

一一　前項ノ通知ヲ受ケタルモノニ對シテハ即日長距離番號簿中舊番號ニ相當スル欄ニ記入シアル記號ヲ

抹消シタル上異動簿廢止處理者欄ニ認印スヘシ

一二　加入課ヨリ無料電話ノ開通、取消、名義變更又ハ改番ノ通知ヲ受ケタルトキハ記錄臺及檢査臺ニ備付ノ無料電話番號簿ヲ補正スヘシ但シ工事ヲ要スルモノハ市内交換課ト打合セ竣工ヲ俟テ補正スルモノトス

一三　長距離番號簿ハ約六ケ月毎ニ一回加入課ニ於ケル加入者原簿ト對照シ其ノ正否ヲ檢査スヘシ

第二章　通話區域其ノ他ノ變更

一四　訂正掛ハ毎日遞信公報ヲ閲覽シ本章ニヨリ關係帳簿類ヲ補正スヘシ

主事ヨリ補正方ヲ命セラレタル場合亦同シ

一五　通話區域ノ追加、長距離通話區域ノ變更又ハ通話料ノ變更アルトキハ市外案内臺、檢査臺並ニ記錄臺ニ備付ノ通話區域簿及市外臺備付ノ揭示ヲ補正スヘシ

一六　中繼順路ノ變更アルトキハ市外案内臺、檢査臺並ニ記錄臺ニ備付ノ中繼順路簿及市外臺備付ノ揭示ヲ訂正スヘシ

一七　通話區域内三等局カ二等局ニ昇格シタルトキハ市外臺備付ノ揭示ヲ訂正スヘシ

一八　通話區域内各局ニ交換事務開始アルトキハ通話區域簿ヲ訂正スヘシ

一九　通話區域内各局ノ取扱時間ニ變動アルトキハ通話區域簿ヲ訂正スヘシ

二〇　前五項ノ事項アルトキハ訂正掛備付ノ原簿ヲ補正シ且ツ其ノ實施月日ヲ附記シ置クヘシ

二一　自局又ハ通話區域内各局ノ呼出區域ニ變動アルトキハ市外案内臺備付ノ呼出區域簿ヲ補正スヘシ

第三章　各局加入者ノ異動

二二　自局又ハ通話區域内各局ノ電話番號簿ヲ新ニ交付セラレタルトキハ直ニ市外案内臺ニ備付クヘシ此ノ場合舊番號簿アルトキハ之ヲ撤去スヘシ

二三　通話區域内各局ノ加入者異動ノ通知ヲ受ケタルトキハ市外案内臺備付ノ電話番號簿ヲ補正スヘシ

（第一號樣式）

長距離加入開廢簿

開始（又ハ廢止變更）月日	電話番號	種別	受付月日	受付者印	訂正者印

第五類　養成及訓育

（第二號樣式）

長距離加入異動簿

竣工月日	舊電話番號	新電話番號	種別	受付月日	受付者印	開始處理者印	廢止處理者印

◉電話交換手見習養成準則

（大正九、一一、一七通信局長依命通牒話第三五八號）

第一章　總則

第一條　電話交換手見習（以下單ニ見習ト稱ス）ノ養成ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外本準則ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二條　養成ハ教室養成及實務養成ノ二トシ其ノ期間ハ通シテ二月乃至三月トス

第三條　教室養成ハ見習ヲ一定ノ教室ニ集メ事務取扱方法及學術ノ授業ヲ爲スモノトス

第四條　實務養成ハ修業後採用スヘキ局課ニ於テ實務ノ指導ヲ爲スモノトス

第五條　見習ハ市内交換ニ從事セシムヘキモノト市外交換ニ從事セシムヘキモノトニ區別シテ養成スヘシ

但シ合同養成ヲ便宜ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二章　見習採用

第六條　見習ト爲スヘキ者ハ地方遞信官署雇員規程ニ適合シ且見習採用試驗ニ合格シタル者ニ限ル

第七條　見習採用試驗ハ口頭試驗及學科試驗ノ二トス

第八條　口頭試驗ハ見習志願者ニ就キ本人ノ家庭、經歷、見習志願ノ動機其ノ他參考トナルヘキ事項ニ關シ直接質問シ其ノ應答振等ニ依リ聽覺、視覺、發音、體格、人物ノ適否ヲ判定スルモノトス

第九條　學科試驗ハ口頭試驗ニ於テ各條件ニ適合スト認メタル者ニ對シ左記科目ニ就キ尋常小學卒業ノ程

度ニ依リ之ヲ行フヘシ但シ尋常小學卒業者ニ對シテハ之ヲ免除スルコトヲ得

算術	一時間	簡易ナル四則應用問題五題以上	
讀書	二十分	小學讀本又ハ交換取扱手續等ヨリ選出シタル短文	
作文	四十五分	讀書ニ準ス	
地理	四十五分	業務ニ關係アル都市名等	

第十條　學科試驗ハ各科目百點ヲ滿點トシ一科目五十點以上平均六十點以上ヲ以テ及第トス

第十一條　前條ノ及第點ニ達セサルモ教室養成ノ結果ニ依リ尚考査ノ見込アルモノハ假ニ及第セシムルコトヲ得

第十二條　學科試驗ニ及第シタル者ニ對シテハ文書又ハ實査ニ依リ家庭ノ狀況、素行ノ良否、他ノ職業ニ從事セシコトノ有無等ニ就キ身元調査ヲ爲スヘシ但シ身元確實ナルコト明カナル者ニ對シテハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十三條　前數條ニ依リ支障ナシト認メタルトキハ成績ノ順序ニ依リ必要人員ヲ採用スヘシ

第二章　教室養成

第十四條　事務取扱方法及學術ハ共通事項ヲ除クノ外各局電話交換方式ノ區別ニ依リ之ヲ教授スヘシ

第十五條　授業時間ハ一日（日曜及祝祭日ヲ除ク）約六時間トシ單式局ニ於テハ約一月複式局ニ於テハ約二月ヲ以テ終了セシムヘシ

第十六條　教授科目及教習時間ノ標準左ノ如シ但シ實際ノ教習時間ハ各局ノ狀況ニ應シ適宜變更スルコトヲ得

教授科目	教習時間ノ標準
一　服務心得	十時間乃至二十時間
二　電話機及電話交換機	二十五時間乃至五十時間
三　電話交換取扱手續	七十時間乃至百四十時間
四　電話番號ノ稱呼及聽取方	五時間乃至十時間
五　電話交換手用語	五時間乃至十時間
六　電話ニ關スル規定	十時間乃至二十時間
七　電話交換技術	二十時間乃至四十時間
八　數字練習	五時間乃至十時間
合計	百五十時間乃至三百時間

第十七條　各科目ノ教授方法及程度ハ左記各號ニ準據シ別ニ各局現行機械裝置及取扱方法等ニ依リ見習養成教範ヲ編纂シ教科書トシテ貸與スヘシ

一　服務心得ハ電話官署組織ノ大要、關係部局相互ノ連絡及電話交換手ノ身分、職務、其ノ他執務ニ關スル一般ノ心得ヲ說明スルコト

二　電話機及電話交換機ハ現用機械要部ノ名稱、働作ノ大要及其ノ交換取扱方法並ニ一般電話交換作業ノ意義等ヲ解說シ適宜圖表又ハ實物ニ依リ之ヲ會得セシムルコト

三　電話交換取扱手續ハ各臺ニ於ケル現行取扱手續、事故交換及注意事項等ヲ講述シ電話交換技術ノ敎習ト相俟テ實用的ニ敎授スルコト

四　電話番號ノ稱呼及聽取方ハ適當ニ數字ヲ配列シタル掛圖等ニ依リ先ツ其ノ稱呼方ヲ口授シ最初ハ全員一齊ニ復稱セシメ漸次速度ヲ早ムルト共ニ各箇人ニ稱呼セシメ明確迅速ノ發音ニ慣熟セシムルコト

五　電話交換手用語ハ專ラ暗記セシムルヲ旨トシ一々口授ニ依リ發音ノ抑揚、語調等ヲ會得セシメ且其ノ用法ヲ誤ラサル樣敎習スルコト

六　電話ニ關スル規定ハ左記事項其ノ他交換取扱上直接必要ナル事項ヲ說明スルコト

電話加入種類、電話番號、度數料金制、長距離裝置、增設及私設電話等接續、通話停止、通話種別、通話區域、電話呼出、託送電報、火災報知

七　電話交換技術ハ養成當務者指導ノ下ニ實習用交換機ヲ働作セシメ「プラッギング」ノ練習其ノ他各臺ニ於ケル實際ノ取扱並ニ呼數統計方法ヲ敎習スルコト

八　數字練習ハ一定ノ手本ニ依リ書體ヲ明瞭ニシ運筆ヲ快速ナラシムルコト

第十八條　各科目ノ敎案ハ見習養成敎範ニ依リ他科トノ連絡ニ注意シ互ニ漸進的且復習的ニ講述シ必要ニ應シ筆記セシムヘシ

第十九條　試驗ハ全科目終了ノ後左記ニ依リ之ヲ行フヘシ

試驗科目	試驗時間	問題數	答案
一　服務心得	一時間	三問乃至五問	筆記
二　電話機及電話交換機	一時間	三問乃至五問	筆記
三　電話交換取扱手續	一時間	三問乃至五問	筆記
四　電話ニ關スル規定	一時間	三問乃至五問	筆記
五　電話番號ノ稱呼及聽取方	稱呼方ハ約二十箇ノ番號ヲ發音セシメ其ノ適否ヲ考試ス 聽取方ハ筆記又ハ復稱セシメ稱呼ト同樣ニ考試ス		
六　「プラッギング」	約二十箇ノ番號ヲ稱呼シ「ジャック」檢索ノ適否ヲ調査ス		

第二十條　試驗ハ各科目百點ヲ滿點トシ一科目五十點以上平均六十點以上ヲ以テ及第トス

第二十一條　前條ノ及第點ニ達セサルモ實務養成ノ結果ニ依リ尙考査ノ見込アル者ハ假ニ及第セシムルコトヲ得

試驗ノ成績劣等ニシテ到底修業ノ見込ナシト認メタル者ハ之ヲ解免スヘシ

第四章　實務養成

第二十二條　實務ハ學科試驗ニ及第シタル者ニ對シ養成當務者之ヲ指導スヘシ

第二十三條　毎日ノ實習時間ハ電話交換手ノ勤務時間ニ準スルモノトシ約一月ヲ以テ終了セシムヘシ

第二十四條　見習約十名ヲ以テ一組トシ各組ニ養成當務者（書記補又ハ主事補ヲ以テ之ニ充ツ）一名ヲ配置シ實習ノ指導其ノ他一般ノ取締ニ當ラシムヘシ

第二十五條　實習事項及實習時間ノ標準左ノ如シ但シ實際ノ實習時間ハ各局ノ狀況ニ應シ左記標準内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

實習事項	實習時間ノ標準
一　座席聽話	二十時間乃至三十時間
二　「プラッギング」練習	二十時間乃至三十五時間
三　學科試問及一般ノ心得	三十時間乃至四十時間
四　實地交換取扱	八十時間乃至九十時間
合計百五十時間乃至百九十五時間	

第二十六條　實習方法ハ左記各號ニ準據シ既習學科ノ完成ト共ニ漸次實地交換取扱ニ支障ナカラシメムコトヲ期スヘシ

一　座席聽話ハ先ツA臺ヨリ始メ一日二、三時間技倆優秀ナル交換手ノ背後ニ於テ其ノ取扱方ヲ聽話セシメ順次B臺其ノ他ニ及ホサシムルコト其ノ期間ハ最初ノ一、二週間トス

二　「プラッギング」練習ハ二人ヲ一組トシテ空席等ヲ利用シ一人ハ番號ヲ稱呼シ他ハ該座席ニ於テ「プラッギング」ヲ練習シ以テ電話番號ノ稱呼、應答、聽取方及機械取扱方ヲ實習セシムルコト

三　學科試問及一般ノ心得ハ實際ノ取扱ニ基キ必要事項ノ質問ヲ試ミ又ハ箇々ノ場合ヲ利用シ實際的ニ說明ヲ與ヘ實務ノ取扱ヲ會得セシムルコト其ノ重ナル事項左ノ如シ

（イ）交換機要部ノ名稱

（ロ）「プラグ」「コード」「キー」ノ取扱方

（ハ）電話交換取扱手續

（ニ）「オーダー」及「コード」指定方

（ホ）代表番號、發信專用番號取扱方

（ヘ）特殊「ジャック」ノ取扱方

（ト）各種埋栓取扱方

（チ）主事補ヘノ接續心得

（リ）火災報知心得
（ス）交換手錯誤及事故ノ種類並ニ其ノ發生原因
（ル）定期試驗心得
（ヲ）統計心得
（ワ）其ノ他特殊設備、申告、障碍ニ關スル心得等執務上必要ナル事項

四　實地交換取扱ハ各臺ノ聽話ヲ終リタル後閑散ナル座席ニ於テ養成當務者又ハ技倆優秀ナル交換手附添ノ上實地交換ヲ取扱ハシムルコト而シテ一回ノ服務時間ハ二、三十分トシ一日ノ總時間ハ漸次增加シテ五、六時間ニ至ラシムルコト

第二十七條　實習成績ハ技術、應答、勤務振ノ三項ニ就キ平常試問及實地取扱ノ狀況ニ依リ之ヲ考査スヘシ

前項ノ採點方法ハ第十九條ニ準スヘシ

第二十八條　前條考査ノ成績及第點ニ達シタルモノヲ卒業トス

第二十九條　前條考査ノ成績及第點ニ達セサルモ將來電話交換手トシテ採用ノ見込アルモノハ特ニ卒業セシメ又ハ其ノ見習養成期間ヲ伸長スルコトヲ得

學科及實習ヲ通シ其ノ成績劣等ニシテ成業ノ見込ナキモノハ之ヲ解免スヘシ

第三十條　學科及實習ノ成績優秀ノ者ハ養成期間滿了前ト雖特ニ卒業セシムルコトヲ得

第五章　養成設備

第三十一條　學科教授及實務練習用トシテ各局ノ狀況ニ應シ左記ノ範圍內ニ於テ必要ナル器具機械及圖表ヲ設備スヘシ

（イ）器具機械

磁石式ノ部		
加入者用交換機	全	上
市內中繼交換機	全	上
「プラッギング」練習臺	全	上
市內交換機解剖臺	全	上
市外交換機	全	上
自働電話交換臺	全	上
案內臺	全	上
「プレストテレフオン」	適當ナル回線數ヲ實裝シ働作シ得ル裝置トス	

甲號卓上電話機	
乙號卓上電話機	
壁掛電話機	
自働電話機	
臺頭受話器	
磁石電鈴	
教授臺	全上
共電式ノ部	
加入者用交換機	適當ナル回線數ヲ實裝シ働作シ得ル裝置トス
市内中繼交換機	全上
「プラッギング」練習臺	全上
市内交換機解剖臺	全上
市外交換機	全上
自働電話交換臺	全上
案内臺	全上

「プレストテレフオン」	
卓上電話機	
壁掛電話機	
自働電話機	
臺頭受話器	
電鈴	
教授臺	全上
度數計	全上但シ度數制實施局ニ限ル
共通ノ部	
度數制用標示環及全受器	
全上用標示管及全容器	
全上用通話票印字機	
音響機	
電鍵	

黑板
「ストップウオッチ」時計
消毒器
卓子
椅子
視力表
身長器
體量器

實際ノ必要ニ依ル

（ロ）圖表

磁石式ノ部

磁石式加入者臺圖解
仝　中繼臺圖解
市外臺圖解
「キーボード」配置圖

A、B各臺ニ於ケル各種「キー」「ランプ」「ジャック」等ノ配置ヲ示シタルモノトス

磁石式記錄臺圖解
仝　監督臺圖解
仝　案內臺圖解
共電式ノ部

共電式加入者臺圖解
仝　中繼臺圖解
仝　市外臺圖解
「キーボード」配置圖
共電式記錄臺圖解
仝　監督臺圖解
仝　案內臺圖解
度數計接續圖
共通ノ部

電話局組織圖
電話加入區域及各分局所屬地域圖

磁石式ニ同シ

電話加入種類略圖
加入者宅内ヨリ自局交換機迄ノ回線接續圖
「プラグコード」圖
複式「ジャック」「キャップ」「ランプ」記號圖
「プラグコード」取扱方圖解
「キー」取扱方圖解
電話番號稱呼及練習圖
各種埋栓木栓一覽表
自局接續交換略圖
他局接續交換略圖
市外通話接續略圖
A臺記錄臺間接續圖
市外中繼信接續圖
重要市外電話回線圖
數字書體圖

各交換方式別トシ「チツプ」「リング」「スリーブ」「コード」等ヲ示スモノトス
各交換機種類別ニ調製シ共電式局ハ加入者「ランプ」應答「ジャック」「ランプ」等ヲ示スモノトス
各種取扱ニ就キ正當不正當ノ取扱方ヲ圖示スルモノトス

上

各種ノ番號ヲ配列シ一般ノ稱呼方ヲ片假名ニテ示シ又特ニ稱呼シ難キ番號誤聞シ易キ番號等ヲ揭ケ練習ニ供セシム

加入者ヨリ市外通話請求ノ場合A臺ヨリ記錄臺迄ノ接續ヲ示スモノトス

◉電話交換手見習採用手續

（當局所定）

一　電話交換手見習採用ハ地方遞信官署雇員規程及電話交換手見習養成準則ニ定ムルモノノ外總テ本手續ニ據ル

二　交換手志願者アルトキハ各課分局ニ於テ之ヲ受付ケ所定ノ電話交換手志願者履歷書（第一號樣式）ニ必要事項ヲ記入ノ上提出セシメ之ヲ養成掛ヘ送付ス

三　養成掛ニ於テ前項履歷書ノ送付ヲ受ケタルトキハ交換手志願者一覽表（第二號樣式）ニ記入シ尙ホ電話交換手志願者調書（第三號樣式）及志願者體格檢查票（第四號樣式）ヲ作成ス

四　交換手志願者ニ對シテハ履歷書ヲ受付ケタル都度交換手志願者學歷調書（第五號樣式）ニ依リ當該學校長ヘ照會ス

五　前項ノ回答書ハ電話交換手志願者調書ニ添綴シ置キ採用試驗ノ際ニ於ケル考查資料トス

六　採用試驗ノ期日ハ其ノ都度之ヲ定ム

七　採用試驗期日ヲ決定シタルトキハ志願者ニ對シ文書ヲ以テ通知スルト共ニ各課分局交換手休憩室ニ之ヲ揭示ス

八　採用試驗委員ハ中央電話局長、監查課長、市内外交換課長、各分局長及養成主任トス

九　採用試驗ハ性情、學科及體格ノ三種トス

一〇　性情試驗ハ志願者ニ就キ本人ノ家庭、經歷、見習志願ノ動機其ノ他參考トナルヘキ事項ニ關シ直接質問シ其ノ應答振等ニ依リ左記事項ニツキ採點ス

(イ)　擧動　試驗場ヘ出入ノ場合及應對中ノ動作
(ロ)　發音　應對又ハ讀書ノ場合ノ聲調
(ハ)　風采　直感的ニ觀察シタルモノ
(ニ)　適性　感覺反應等ヲ觀察シタルモノ但シ場合ニヨリ省略スルコトヲ得
(ホ)　人物　前各項ノ平均點

一一　學科試驗ハ左記科目ニ就キ尋常小學卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

(イ)　算術　簡易ナル四則應用問題五題以上但シ場合ニヨリ省略スルコトヲ得
(ロ)　讀書　小學讀本又ハ電話交換教科書ノ一部
(ハ)　作文　讀書ニ準ス但シ場合ニヨリ省略スルコトヲ得
(ニ)　地理　業務ニ關係アル都市名等但シ場合ニヨリ省略スルコトヲ得

一二　性情及學科試驗ハ各科目百點ヲ滿點トシ各委員ノ採點數ヲ平均シ一科目五十點以上平均點六十點以上ヲ及第トス

一三　體格檢查ハ身長、胸圍、視力、聽力、及內臟等ニ付キ行ヒ之ニ對シ甲乙丙ノ三階級ニ分チタル總評ヲ附ス

一四　體格檢查ノ結果合格ト決定スヘキモノノ標準左ノ如シ

(イ)　身長　四尺五寸以上但シ發育ノ見込アルモノハ此ノ限ニアラス
(ロ)　視力　兩眼トモ〇、七以上ノモノ
(ハ)　聽力　完全ナルモノ
(ニ)　總評　乙以上ノモノ

一五　前條以外ノモノト雖モ「トラホーム」、「呼吸器病」其ノ他傳染性ノ疾患アルモノ又ハ腋臭等他人ニ惡感ヲ懷カシムル如キ疾患アルモノハ不合格トス

一六　見習採用ノ年齡ハ滿十三歲以上十八歲以下トス但シ已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニアラス

一七　前各條ニ適合スルモ市內又ハ附近ニ確實ナル保護者又ハ寄寓先ナキモノハ採用セス

一八　前數條ニヨリ支障ナシト認メタルトキハ成績ノ順序ニ依リ要員ヲ採用ス

附則

本手續ハ大正十三年六月一日ヨリ實施ス

（第一號樣式）

電話交換手志願者履歷書

原籍地

現住所

戸主

女 明治 年 月 日生

學事

一、年 月 學校ニ入學 年 月 業ス

一、年 月 學校ニ入學 年 月 業ス

職業

一、年 月ヨリ 年 月マデ ニ從事ス

右之通相違無之候也

大正 年 月 日

（第二號樣式）

電話交換手志願者一覽表（ 年 月 日試驗執行）

受付番號	現住所	學歷	年齡（滿）	氏名	紹介者

（第三號樣式甲）

電話交換手カード（表面）

受付第 號 年 月 日

本人氏名 年齡	原籍	住所	戸主氏名續柄	市內ノ寄寓先氏名
年 月 日生（滿 歳）				

職業	家族	志願動機	最寄停留所名	記事
本人 父 兄 母 他ノ家族 寄寓先	父母 兄姉 弟妹 其ノ他			

紹介者

學校長回答	
讀方	
綴方	
書方	
算術	
唱歌	
性質	
長所短所	
操行	
身體強弱	
境遇	
職業	
其ノ他	
年 月 日 學科	

採用試驗成績	
擧動	
發音	
風采	
適性	
人物	
讀書	
身長	米
胸圍	米
視力	左 右
聽力	
內臓	
總評	
合格不合格	
年 月 日試驗	年 月 日採用

（第三號樣式乙）

電話交換手カード　（裏面）

身元保證人		學科試驗成績		履歷			
住所		修業	服務	給料			
原籍			手續				
氏名 生年月日	年　月　日生		番號				
			用語				
			平均點				
記事	本人ト ノ關係 戸主又 ハ戸主 トノ續 柄	實務	技術				
			答應				
			ツグランプヤ				
			數字				
			勤務振				
			平均點				
		採否		定級檢者	等級	格日 令年月	
		長所		ジギンツプラ特殊有技者			
		短所					
		記事		別記			

配屬局

身體檢查票

（受付第　號）

（第四號樣式）

氏名	
年齡（滿）	年
身長	米
胸圍	米
視力	
聽力	
內臟	
總評	
備考	

性情及學科試驗票

（受付第　號）

（第五號樣式）

氏名	
科目	得點
舉動	
發音	
風采	
適性	
人物	
讀書	
備考	

試驗委員

（第六號樣式）

名話秘丙第　　號	大正　年　月　日
學校長殿	名古屋中央電話局

御繁務中誠に恐縮でありますが左記の者に對する照會事項御取調の上御回答が御願ひ出來れば甚だ幸と存じます

……切り……取……線……

（回答用紙）

卒業科及年月日	科　年　月　日									
原籍	縣　郡市　村町　番戸地									
現住所	縣　郡市　村町　番戸地									
	明治　年　月　日生									
照會事項	名話秘丙第　號に對する回答									
學科成績	讀方		綴方		書方		算術		唱歌	
性質										
長所短所										
操行										
身體强弱										
家庭　境遇										
家庭　職業										
其他參考事項										

回答番號　　號	學校長
大正　年　月　日	

◉電話交換手見習修業試驗ニ關スル件　（當局所定）

一　交換手見習修業試驗ハ見習養成準則ニ準據スルノ外本方法ニ依リ成績ヲ採點スルモノトス

二　學科試驗科目ハ次ノ如ク區別シテ採點ス

イ　服務心得　服務ト作法トヨリ各一乃至三問題ヲ課シ答案ヲ筆記セシム

ロ　取扱手續　電話機及電話交換機、取扱手續、電話ニ關スル規定ノ三科目ヲ合シテ三乃至五問題ヲ課シ答案ヲ筆記セシム

ハ　番號稱呼及聽取方　稱呼方ハ約二十個ノ番號ヲ發音セシメ其ノ適否ヲ調査ス
聽取方ハ筆記又ハ復稱セシメ稱呼方ト同樣ニ採點ス

ニ　交換手用語　三乃至五問題ヲ課シ答案ヲ筆記セシム

三　實務成績ハ左ノ科目ニツキ平常ノ試問及實地取扱ノ狀況ニヨリ採點ス

イ　技術　實地交換取扱方ノ良否

ロ　應答　加入者ニ對スル應對振ノ良否

ハ　プラッギング　約二十個ノ番號ヲ稱呼シ「ジャック」檢索ノ適否ヲ調査ス

ニ　數字　書體ノ良否及運筆ノ遲速

ホ　勤務振　　養成中ニ於ケル勤惰及勤務振

ヘ　操行　　平素ノ行狀ニヨリ甲、乙、丙ニ區別ス

ト　長所短所　　將來各課分局ニテ指導矯正上參考トナルヘキ事項ヲ記入ス

四　學科試驗ノ答案ハ各擔任敎官ニ於テ採點シ主任ヘ提出スルモノトス

但シ必要ニ應シ主任ニ於テ全部ヲ取纏メ採點スルコトアルヘシ

五　學科及實務成績ハ各科目トモ百點ヲ滿點トシ一科目五十點以上平均六十點以上ヲ及第トス

六　學科及實務成績ハ修業試驗成績表（第一號樣式）ニ記入シ答案ト共ニ擔任敎官ヨリ主任ヘ提出スルモノトス

（第一號樣式）

大正　年度第　期市內（外）見習修業試驗成績表

學科					實務						操行	長所短所	氏名
服務	手續	番號	用語	平均	技術	應答	プラ	數字	勤務	平均			

◉電話加入者宅內電話交換取扱者養成方ノ件（大正十二年七月十一日名監業第一五四九一號）

電話加入者カ電話機ノ增設又ハ官私設電話接續ヲナス場合ハ相當資格アル交換取扱者ヲ定メ屆出ヲ爲スヘキコトハ電話規則第四號及第五號書式中ニ明示アル處斯カル制度ノ設定セラレタルハ其ノ交換取扱者ノ技能ノ良否カ一般電話官署ノ交換作業ニ多大ノ影響ヲ及ホシタル事例ニ稽ヘ之ヲ防止スル目的ニ出テタル義ニ付電話加入者宅內電話交換取扱者養成委託手續ニ依リ之カ委託ヲ受ケタルトキハ概ネ左記標準ニ基キ養成シ以テ交換作業ノ實務ニ通曉セシメ彼我ノ通話ヲ圓滑ナラシムルコトニ配意シ又私設交換取扱者ニシテ技能未熟或ハ屆出以外ノ者ヲ發見シタルトキハ直ニ相當措置シ常ニ交換作業ノ向上ニ努メラレタシ

追テ本通牒ニ抵觸スル從前ノ通牒ハ消滅シタル義ト了知アリタシ

記

一　本取扱者ハ各電話交換取扱局ニ於テ一般ノ交換手見習ト略同樣ノ方法ニ依リ養成スルコト

二　養成ニハ局長、課長又ハ主事等實務ノ經驗深キモノ之ニ當ルコト

三　養成科目左ノ如シ

イ　養成委託手續第四條各號ノ科目

ロ　交換手用語

ハ　私設交換手トシテノ必須事項

四　養成委託ヲ爲ス者アルトキハ左ノ書類ヲ提出セシムルコト

イ　電話加入者宅内電話交換取扱者養成委託書（第一號樣式）

ロ　履歷書（一般ノ例ニ依ル）

ハ　養成委託手續第二條第四號乃至第六號ノ事項ヲ證明スルニ足ル醫師ノ診斷書

五　前號ノ書類ヲ受理シタルトキハ適宜ノ方法ニ依リ本人ノ性行ヲ調査シ養成委託手續第二條各號ノ資格ヲ具備スルヤ否ヤヲ審査シ許否ヲ決定シ委託者ヘ通知スルコト

六　養成委託ヲ承認シタルトキハ一件書類ハ別途處理シ第二號樣式ニ依リ當局長ヘ報告スルコト

七　養成期間及養成時間等ハ養成局ノ都合及本人ノ能力等ニ依リ當該局長ニ於テ適宜之ヲ定ムルコト

八　養成期間ニ於テ一應養成ヲ修了セシメ相當期間内局交換ノ實務ニ從事セシムルコト

九　「プラッギング」ノ挿入數ハ三分間ニ六十ヲ完全ニ挿入シ得ル樣養成ニ努ムルコト

但シ宅内交換ノ繁閑ニ應シ之ヲ增減スルモ支ヘナシ（本機械ノ設備ナキ向ハ適宜ノ方法ニ依リ養成スルコト）

十　本人ノ能力及經驗等ニ依リ實務ニ支障ナシト認メタルトキハ修習期間内ニ於テモ適宜養成ヲ終了セシメ支ナキコト

十一　養成中ハ養成科目ニ付時々試問及「プラッギング」試驗ヲ行ヒ其ノ熟達進歩ノ程度ヲ査覈シ成業ノ見込アルヤ否ヤ及養成委託手續第二條ニ該當セサルニ至リタルモノナキヤヲ常ニ注意スルコト

十二　養成委託手續第七條ニ依リ養成委託ヲ取消スノ要アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ當局長ノ指揮ヲ受クルコト

十三　養成ヲ終了シタルトキハ其ノ成績ヲ考査記錄シ直ニ第三號樣式ノ調書ヲ添付シ相當上申スルコト

十四　前號上申書ニハ尙左ノ書類ヲ添付スルコト

イ　私設交換用トシテ特ニ敎示シタル事項

ロ　養成科目毎ニ其ノ擔當者名

ハ　養成科目別敎授時間數

十五　養成終了者ニハ其ノ成績ヲ考査シ養成局ヘ第四號樣式ノ終了證書ヲ送付スヘキヲ以テ本人ヘ交付スルコト

（第一號樣式）

電話加入者宅内電話交換取扱者養成委託書

原籍何府（縣）何郡（市）何村（町）何番地

何　某

右ノ者電話加入者宅内電話交換取扱者トシテ養成相成度此段委託候也

年　月　日

住所何府(縣)何郡(市)何村(町)何番地
何局電話何番加入者　何　某　㊞

何郵便(電話)局長殿

（第二號樣式）

電話加入者宅内電話交換取扱者養成委託報告

委託加入者住所氏名	養成ヲ受クル者 原籍氏名	生年月日	性行	學力	養成開始月日	終了見込月日	備考

右報告ス

年　月　日

名古屋遞信局長殿

何郵便(電話)局長

何年何月何日生

（第三號樣式）

電話加入者宅内電話交換取扱者養成成績調書

學科 電話學	實務 何々	評點	市内交換 何々	評點	プラッギング挿入數	宅内最繁時呼數	性行	氏名	養成日數	備考

記入心得

一　學科及實務並ニ性行ハ左ノ區別ニ依リ記入スルコト

イ　甲（優等）
ロ　乙（良好）
ハ　丙（普通）
ニ　丁（不良）

二　學科ハ養成委託手續第四條各號ノ順ニ夫々其ノ成績ヲ記入シ之ニ對スル評點ヲ附スルコト

三　實務モ前號ニ準シ記入スルコト

四　「プラッギング」挿入數欄ニハ三分間「プラッギング」試驗ヲ行ヒ完全ニ挿入シ得ル平均一分間ノ數ヲ記入スルコト但シ本機械ノ設備ナキ局ハ機宜ノ方法ニ依リ調査スルコト

五　宅内最繁時ノ呼數欄ニハ電話加入者宅内交換臺ニテ最繁時ニ於ケル呼數（宅内相互間ニ交換スルトキハ之ヲ含ム）又ハ見込數（見込數ナルトキハ其ノ旨附記スルコト）ヲ記入スルコト

（第四號樣式）

終了證書

原籍何府（縣）何郡（市）何村（町）何番地

何　某

何年何月何日生

右ノ者何局ニ於テ電話加入者室内交換取扱者委託養成手續第四條所定ノ事項ヲ終了シタルコトヲ證ス

年　月　日

名古屋遞信局長何某㊞

◉電話交換主事補養成規程

（當局所定）

第一條　電話交換監督指導其ノ他女子幹部トシテ必要ナル事項ノ訓育ヲ掌ル目的ニテ主事補養成掛ヲ置ク

第二條　通信書記補及電話交換主事補ハ本規程ニヨリ養成ヲ了シタル電話交換主事補又ハ電話交換手ヨリ之ヲ採用ス

第三條　養成教官ハ課分局長ヲ以テ之ニ宛ツ

前項ノ外必要ニヨリ主事ヲ以テ宛ツルコトアルヘシ

教官トシテノ加入及料金課長ハ各其ノ主管事務ノ大要ニ付臨時講座ヲ受持ツモノトス

第四條　本規程ニヨリ養成ヲ受クヘキモノハ左記ニ該當スル交換手トシ交換課分局ニテハ各其ノ主事補以上ノ女子吏員定員ノ約一割ニ相當スル員數ヲ撰出スヘシ

一　勤務成績良好ニシテ主事補トシテノ才能アリト認ムルモノ

二　現ニ滿二年以上勤續シ將來永ク奉職ノ見込アルモノ

第五條　授業時間ハ毎日（日曜祭日ヲ除ク）午後三時ヨリ午後四時迄トシ三ケ月間ニテ修了スルモノトス

但シ實況ニヨリ適宜伸縮スルコトアルヘシ

第六條　各課分局ニ於テハ被養成者ノ全部ヲ甲乙丙ノ三組ニ分チ各一組宛ヲ順次本局養成所ニ出頭セシム

ヘシ

第七條　教授スヘキ科目ハ別記ノ通リトス

第八條　期間ノ中途ニ於テ時々試驗ヲナシ最後ニ於テ修了試驗ヲ爲ス

第九條　終了試驗ハ各科目六十點以上ヲ以テ及第トス

第十條　一科目六十點以下ノモノ並ニ一期間中缺席日數養成期間ノ三分ノ一ニ達スルモノハ更ニ次學期ニ編入ス

第十一條　第四條以外ノ當局吏員ト雖モ隨時聽講スルコトヲ得

第十二條　教官ノ受持講座ハ別ニ定ム

第十三條　本規程ニヨル養成上必要ナル庶務ニ關スル事務ハ監査課ニ於テ是レヲ掌理スルモノトス

附　則

第十四條　本規程ハ大正十一年五月一日ヨリ之ヲ實施ス

第十五條　本規程實施ノ際現ニ當局ニ在勤スル女子吏員中通信書記、通信書記補及電話交換主事補ハ本規程實施ノ日ヨリ向フ九ケ月以内ニ於テ第四條ニヨル交換手ト同一ノ訓育ヲ受クルモノトス

（別　記）

電話交換主事補教授綱目

目　次

第一款　一般心得
第一課　主事補ノ地位
第二課　主事補ノ職務
第三課　公衆ニ對スル心得
第四課　交換手ニ對スル心得
第一節　總說
第二節　指導ノ心得
第三節　訓練ニ關スル心得
第四節　從順
第五節　習慣
第六節　日常ノ心得
第五課　言葉遣ト調子
第六課「サーヴヰス」
第七課　監査

第一節　監査ノ目的
第二節　監査方法及種別
第三節　監査機ニヨル監査
第四節　座席附添監査
第五節　配線盤監査
第六節　加入者宅出張監査
第七節　監査ノ心得
第八節　監査成績ノ利用
第八課　申告
第一節　申告處理ノ大要
第二節　申告受付ノ心得
第三節　申告ノ調査
第四節　申告ニ對スル將來ノ注意
第二款　市内交換
第九課　交換機

第一節　交換機ノ種類
第二節　單式交換機
第三節　複式交換機
第四節　共電式市内交換機
第五節　市外交換機
第六節　電信裝置
第七節　監査機
第十課　加入者臺
第一節　加入者臺ノ使命
第二節　一般心得
第三節　監督方法
第四節　注意事項
第五節　事故交換ノ處理
第十一課　中繼臺
第一節　中繼臺設備ノ理由
第二節　中繼臺ノ裝置

第三節　中繼臺ト加入者臺トノ關係
第四節　監督方法並ニ注意事項
第五節　中繼臺事故交換
第十二課　自働臺
第一節　交換監督上ノ注意
第二節　事故ニ對スル處理方法
第三節　通話數ノ報告
第十三課　案内臺
第一節　案内臺設備ノ目的
第二節　案内臺執務者ノ心得
第三節　案内臺擔務ノ說明
第四節　案内臺ノ構造及働作ノ大要
第五節　案内臺備付帳簿
第六節　番號索引方法
第七節　加入者移動訂正處理手續

第八節　通話停止及同解停
第九節　埋栓及「ジャック」記號ノ整理
第十節　度數調査係
第十四課　市内監督及監督部
第一節　監督臺
第二節　監督部ノ組織及任務
第三節　監督部員一般ノ心得
第十五課　障碍席「トラブル、ポジション」
第一節　障碍席設備ノ理由
第二節　障碍ノ受付及其ノ處理方法
第十六課　繁忙時及閑散時ニ於ケル注意
第一節　繁忙時ニ於ケル注意
第二節　閑散時ニ於ケル注意
第十七課　私設交換ニ對スル注意
第一節　私設交換機設備理由

第二節　私設電話交換設備ノ發達
第三節　私設交換設備ノ種類構造並ニ働作ノ概要
第四節　市內交換取扱上私設電話ニ對スル注意
第五節　市外交換取扱上私設電話ニ對スル注意
第六節　私設交換手ノ取締並ニ私設交換取扱者ノ注意
第十八課　機械ノ取扱
第一節　取扱上ノ注意
第二節　機械ノ點檢並ニ保守
第三節　機械ノ價格
第十九課　障碍
第一節　障碍ノ現象
第二節　障碍ノ種類
第三節　障碍ト其ノ原因
第四節　障碍ノ處理
第二十課　略試驗
第一節　略試驗ノ必要
第二節　障碍ノ處理
第三節　試驗方法
第二十一課　定期試驗
第一節　定期試驗ノ目的
第二節　市內交換機ノ試驗
第三節　市外交換機ノ試驗
第四節　試驗ノ報告並ニ障碍ノ處理
第三款　市外交換
第二十二課　記錄及檢查
第一節　記錄臺
第二節　檢查席
第二十三課　市外交換
第一節　市外電話回線ノ種類
第二節　交換狀況

第三節　通話ノ待合時間
第四節　交換手負荷ト市外線回線能率
第五節　部長トシテノ注意事項
第六節　市外線ノ併合
第七節　交換手ヨリ移牒セシムヘキ事項
第二十四課　市外案内臺及呼出
第一節　案内臺ノ目的及裝置
第二節　案内臺ノ取扱事務
第三節　取扱上ノ注意
第四節　電話呼出
第四款　業務
第二十五課「サーヴヰス」
第二十六課　技倆及負荷
第一節　技倆
第二節　負荷

第二十七課　勤務及座席擔當
第一節　勤務
第二節　交換手配置
第二十八課　競技
第一節　競技ノ目的
第二節　競技ノ種類
第三節　個人競技
第四節　部別競技
第五節　局間競技
第六節　電信競技
第二十九課　參觀者ノ案内
第一節　機械室
第二節　交換機ノ働作ト交換取扱ノ順序
第三十課　養成
第三十一課　統計

第一節　市内交換ニ關スルモノ
第二節　市外交換ニ關スルモノ
第三十二課　風紀及衛生
第三十三課　消火器ノ使ヒ方
第三十四課　賞罰
第一節　總說
第二節　褒賞
第三節　懲罰
第四節　規定上ノ賞罰
第三十五課　身分進退上ノ注意
第三十六課　給與
第一節　俸給及給料
第二節　退官賜金及退職手當
第三節　年功加給
第四節　勤勉手當

第五節　臨時勤勉手當
第六節　共濟組合
第七節　給與ニ關スル注意
第三十七課　慰安訓育
第五款　電話ニ關スル規則ノ大要
第三十八課　電話ノ規則
第一節　電話加入種類
第二節　電話加入區域
第三節　電話開通
第四節　電話番號
第五節　電信專用電話
第六節　電話ニ關スル料金
第七節　通話停止
第八節　無料電話加入
第九節　電話番號簿
第十節　通話規則

◉家政講習會規程（當局所定）

總則

第一條　本會ハ女子從事員ニ對シ家事ニ關スル智識技能ヲ授ケ兼ネテ婦德ヲ涵養スルヲ目的トス

機關

第二條　本會ニ理事及書記若干名ヲ置ク

理事ハ局長課分局係長ヲ以テ是ニ宛テ書記ハ上記以外ヨリ是ヲ定ム

理事ハ本會ノ事務ヲ處理シ書記ハ理事ノ命ニヨリ庶務ニ從事ス

理事ノ內市內交換課長市外交換課長及分局長ヲ常任理事トス

第三條　本會ニ囑託ヲ置ク

囑託ハ各其ノ受持ニヨリ教導ノ任ニ當ルモノトス

第四條　左記ノモノヲ會員トス

一　交換手　但シ服務ノ都合上支障ナキモノニ限ル

二　其他ノ女子吏員　但シ希望者中服務ノ都合上支障ナキモノニ限ル

第五條　入會セントスル場合ハ自己ノ屬スル理事ニ申出テ理事ハ常任理事ニ通知スヘシ

退會セントスル場合ハ受持囑託ニ申出テ囑託ハ常任理事ニ申出ツヘシ

教授

第六條　教授科目左ノ通リトス

一　家政科　家事經濟、家事衛生、家計簿記、育兒、養老、看病、食品調理、生花、茶道、其ノ他家事上必要ナル事項

二　裁縫科　和服裁縫、繕方、其ノ他家庭ニテ必要トスル事項

第七條　學期ヲ左ノ通リ定ム

第一學期　四月一日ヨリ十月卅一日マテ

第二學期　十一月一日ヨリ三月卅一日マテ

第八條　學期終了セルモノニ對シテハ本會名ヲ以テ習得證書ヲ授ク

期ノ中途ヨリ入會セルモノニ對シテハ本人ノ力量等ニ依リ特ニ習得證書ヲ授與スルコトアルヘシ

附則

第九條　當分ノ內家政科ハ本局ニ又裁縫科ハ本局及分局ニ各別ニ置ク

◉家政講習會細則

（當局所定）

第一條　規則第四條ノ會員ハ早出居殘ヲナサシムルカ又ハ本務ニ支障ナキ限リ相當差繰ヲナシ可成多數ノモノヲシテ習得セシムヘキ手段ヲ執ルモノトス

第二條　學科別ニ左ノ樣式ニ依ル會員簿ヲ設備シ擔當囑託之ヲ處理スヘシ

會員氏名	入會年月日	退會年月日	成績	修業年月日	記事
			第一學期		
			第二學期		

第三條　會員ノ出席ヲ調査スル爲メ左ノ樣式ニ依ル出席簿ヲ學科別ニ設備シ擔當囑託之ヲ處理スヘシ

會員氏名 ＼ 日別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

日別ノ欄ハ毎月新規ノ分ヲ上部ニ貼付スルコト

第四條　本會書記ハ左ノ樣式ニ依ル訓育用備品ノ現在簿ヲ調製シ整理ノ任ニ當ルヘシ

品名	出納理由	現在數

第五條　裁縫ノ材料ハ可成會員自身ニ於テ提供スルコトトス但シ會ニ於テハ呉服商又ハ古着商ト適當ニ協定シ材料ノ供給ヲ受クル途ヲ講シ又名古屋遞信部内ノ向ヘ適當ナル材料供給方ヲ交渉スルモノトス

第六條　前條但書ノ仕立物ニ對スル手數料又ハ糸等ノ材料代ハ可成低廉ヲ主トシ別ニ定ム

第七條　仕立物ハ左ノ樣式ニ依ル仕立物出納簿ヲ設備シテ出納シ擔當囑託之ヲ處理スヘシ

受入品名	受入月日	仕立從事者	仕立月日	供給者住所氏名	供給者へ引渡月日及受領印	受入手數料等	記事

第八條　仕立物ヲ供給者ニ送付スル場合ハ左ノ送付書ヲ上部ニ添付スヘシ

第九條　各科ノ教導方法ハ擔當囑託ニ於テ之ヲ定メ理事ノ承認ヲ受クヘシ

約三寸

名古屋中央電話局
家庭講習會仕立
御仕立物
様（　月　日預リ
　月　日出來）

大正十四年三月卅一日印刷
大正十四年四月一日發行

名古屋中央電話局

名古屋市中區南吳服町二丁目
印刷人　高橋銕五郎
名古屋市中區南吳服町二丁目
印刷所　成弘社印刷所
電話本局四三一七番